

# 第3次防府市生涯学習推進計画

## 令和5年度事業実施報告書

基本目標	1 いつでもどこでも学べる環境づくり
施策	(1) 生涯学習意識の醸成
施策の展開	① 生涯学習情報発信の充実
施策の方針	市民の生涯学習意識の醸成や学ぶことに対する意欲の高揚をはかるため、必要とされる生涯学習情報を適切に提供する仕組みの充実やさまざまな啓発・広報活動の充実を図る。

【評価】
評価項目の合計点数をもとに記入
A～Dで評価
【評価項目(到達度、事業効果、効率性)】
それぞれ1～4(点)で評価

【今後の方向性】
A. 拡充を図る
B. 現行のまま推進する
C. 事業の改善が必要
D. 計画の見直しが必要

※記入要領参照

事務事業の進捗状況

内容の 施策の	連番	主な取組	事業説明	4年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (4年度)		5年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (5年度)		評価コメント 課題	今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課
						到達度	3			到達度	3				
ア 総合的生涯学習情報の収集・提供	1	生涯学習関係機関との連携による学習情報の収集	関係機関の生涯学習情報の収集を行う。文化センター、公民館等での講座など	文化センター、公民館、防府市地域交流センター、青少年科学館他、関係機関の情報収集及びホームページ等への掲載	-	B		文化センター、公民館、防府市地域交流センター、青少年科学館他、関係機関の情報収集及びホームページ等への掲載	-	B		ホームページ等により、各関係機関の講座情報の収集を行うことができた。	B	最新の情報を得るため、定期的に関係機関への情報収集を行うよう努める。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3	新たな関係機関の学習情報を収集する方法の検討が必要である。			
						効率性	3			効率性	3				
	2	市の学習情報の一元的な管理	市職員が講師となる講座の管理を行う。聞いて得するふると講座	聞いて得するふると講座 31課64メニュー 申込件数:112 実施件数:109	22	B		聞いて得するふると講座 31課64メニュー 申込件数:150(1件の申込で複数の講座の申請あり) 実施件数:153(1件中止) ※No.29に再掲	22	B		申込数は増加傾向にある。	B	引き続き、各課に呼びかけを行い、メニューの追加や内容の充実を努める。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3	市民の多様なニーズに応える魅力的な講座となるよう、メニューの見直しが必要である。			
						効率性	3			効率性	3				
	3	生涯学習のきっかけづくり	生涯学習フェスティバル、セミナー等において、市民自らが体験を行うことやPR活動を通して、生涯学習のきっかけづくりを行う。生涯学習フェスティバル、学ぼうやセミナー等	・生涯学習フェスティバル 開催日:令和5年2月26日(日) 来場者数:延べ2,428人 内容:自主企画講座、講演、ものづくり、文化センター市民教養講座・サークル作品展、学ぼうやコンテスト等 ・学ぼうやセミナー 【夏季】令和4年7月30日(土)開催 18講座、参加者(延べ308人) 【春季】令和5年2月26日(日)開催 17講座、参加者(延べ312人)	618	B		・生涯学習フェスティバル 開催日:令和6年3月3日(日) 来場者数:延べ2,534人 内容:自主企画講座、講演、ものづくり、文化センター市民教養講座・サークル作品展、学ぼうやコンテスト等 ・学ぼうやセミナー 【夏季】令和5年7月30日(日)開催 18講座、参加者(延べ465人) 【春季】令和6年3月3日(日)開催 21講座、参加者(延べ457人)	618	B		生涯学習フェスティバルなど、概ね計画どおりに事業を実施できた。また、フェスティバルをフェスタアスピラートと同日開催することで、笑顔満開通り一帯でのにぎわい創出につなげることができた。	B	生涯学習フェスティバルをはじめ、より多くの方に生涯学習に触れていただけるように、引き続き、ラジオや広報誌だけでなく、SNS等も活用して講座等の幅広い周知に努める。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3	講座によって集客にばらつきがあるので会場配置やPR方法に工夫が必要である。			
						効率性	3			効率性	3				
	4	市広報やホームページ等のさまざまなメディアを活用した学習情報の提供	各学習情報の市広報や市ホームページ、テレビ、ラジオ等を活用し情報提供を行う。生涯学習課、社会福祉協議会、市民活動支援センターが協力して作成した「まなぼら」や「まなぼうやだより」を活用し情報提供を行う。	各種講座等の市広報への掲載 各団体のホームページ及び生涯学習課ホームページへの掲載 FMわっしょい「防府市からのお知らせ」への出演 まなぼら発行(4回) まなぼうやだより発行(3回)	154	B		各種講座等の市広報、市SNSへの掲載 各団体のホームページ及び生涯学習課ホームページへの掲載 FMわっしょい「防府市からのお知らせ」への出演 まなぼら発行(4回) まなぼうやだより発行(3回)	152	B		計画どおりに広報への掲載や情報誌の発行を実施できた。また、インターネット(SNS)等の活用も積極的に行うことができた。	B	引き続き市広報・情報紙等により情報発信を行うとともに、若い年齢層に有効な広報媒体であるインターネット(SNS)等を活用した情報の発信に努める。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3	市広報・情報紙は、有効な情報発信の方法ではあるが、その効果を計ることは難しい。			
						効率性	3			効率性	3	関心の低い年齢層への更なる情報発信が必要である。			

基本目標	1 いっでもどこでも学べる環境づくり
施策	(2) 多様な学習機会の提供
施策の展開	① ライフステージに応じた学習機会の充実
施策の方針	生涯の各時期における課題に対応した学習を行うことが求められている。このため、一生を時期の特性などにより、乳幼児期、少年期・青年期、成人期・高齢期に区分し、各時期のニーズに応じた学習機会の提供を図る。

【評価】
評価項目の合計点数をもとに記入
A～Dで評価
【評価項目(到達度、事業効果、効率性)】
それぞれ1～4(点)で評価

【今後の方向性】
A. 拡充を図る
B. 現行のまま推進する
C. 事業の改善が必要
D. 計画の見直しが必要

※記入要領参照

事務事業の進捗状況

施策内容	連番	主な取組	事業説明	4年度末実施状況	事業費(千円)	評価(4年度)		5年度末実施状況	事業費(千円)	評価(5年度)		評価コメント 課題	今後の方向性	今後の事業への反映	担当課
						到達度	効率性			到達度	効率性				
ア 乳幼児期における学習機会の提供	5	子育てサークル等の親子で参加できる遊びや交流の機会の提供	乳幼児の親子が交流できる場所として、「子育てサークル」わいわいHOFUっ子の集い」等を開設する。	各地区子育てサークル:14地区(44回)参加者(延べ410組) わいわいHOFUっ子の集いは、感染拡大防止のため実施せず。	345	B		各地区子育てサークル:14地区(49回)参加者(延べ494組) わいわいHOFUっ子の集い:参加者 親子93組(こども100名)	1,079	B		子どもの人数が少ない地区は土日にサークルを開催する等の工夫をし開催した。わいわいHOFUっ子の集いは4年ぶりに開催し、多くの親子が楽しく参加でき、交流の機会にもなった。	B	サークル、集いの企画・運営について、母子保健推進員の負担が軽減する方法を検討していく必要がある。	こども相談支援課(健康増進課)
						到達度	4			到達度	4				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
	6	子育て世代が必要とする出産や育児に関する学習機会の提供	妊婦とパートナーを対象に、助産師・保健師・管理栄養士の講話や妊婦ジャケットの着用・赤ちゃん人形での抱き方の練習等の体験を通じて、出産・子育てについての心構えを学び知識を学ぶ教室を開催する。また、栄養士によるミニ離乳食教室やゆっくり子育て学び塾により認定心理士の講話や学ぶロールプレイングの実習を行う。	両親学級:(5回)参加者(延べ77組151人) ミニ離乳食教室:12回(月1回)参加者(延べ139組) 理学療法士相談:6回、参加者(延べ15人) 乳幼児相談:34回(月3回)参加者(延べ916人) ゆっくり子育て学び塾:(6回)参加者(延べ46人)	893	B		両親学級:(4回)参加者(延べ88組177人) ミニ離乳食教室:12回(月1回)参加者(延べ173組) 理学療法士相談:6回、参加者(延べ27人) 乳幼児相談:35回、参加者(延べ1391人) ゆっくり子育て学び塾:(6回)参加者(延べ48人)	747	B		妊娠前から子育て世代が、安心して出産・子育てができるよう、情報を得る場や相談・交流する場を提供できた。また、理学療法士相談以外は、利用しやすいようアプリで予約できるようにした。	B	参加して知識を得る、専門職に相談するだけでなく、参加者同士が交流できるような運営方法など工夫していく。ゆっくり子育て学び塾は、参加者の減少にともない、教室名、テーマや講師を見直しして実施する。	こども相談支援課(健康増進課)
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
7	家庭教育学級等の地域住民や保護者を対象とした子育て講演会の開催	各公民館や文化センターにおいて、子育てや家庭教育に関する講座(家庭教育学級)や、親子や地域でのふれあい活動などを行う。	各公民館家庭教育学級:参加者(延べ1,604人)	5,824	B		各公民館家庭教育学級:参加者(延べ1853人)	5,994	B		家庭教育学級など、概ね計画どおりに実施することができた。	B	多様化するニーズに対応した講座や教室の充実を図る。	生涯学習課	
					到達度	3			到達度	3					
					事業効果	3			事業効果	3					
					効率性	3			効率性	3					
7	地域の子育て支援機能の充実を図るため、子育て及び子育て支援に関する講習等を開催する。	地域及び子育て家庭を対象に、子育て及び子育て支援に関する講習等を実施【開設:8箇所】	地域及び子育て家庭を対象に、子育て及び子育て支援に関する講習等を実施【開設:8箇所】	53,018	B		地域及び子育て家庭を対象に、子育て及び子育て支援に関する講習等を実施【開設:8箇所】	54,896	B		地域の未就園児と保護者同士の交流が図れた。	B	地域子育て支援拠点施設が子育て親子の交流の場となるよう、引き続き実施する。	子育て支援課	
					到達度	3			到達度	3					
					事業効果	3			事業効果	3					
					効率性	3			効率性	3					

内容 の 実施	連番	主な取組	事業説明	4年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (4年度)		5年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (5年度)		評価コメント		今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課
						到達度	3			到達度	3	課題				
イ 青少年 期にお ける学 習機 会の 提供	8	学校・地域・企業等との連携・協働による体験・交流活動の推進  清掃活動、職場体験等	子どもが個性豊かに生きる力を育むため、学校と地域や企業等との連携・協働による、ボランティア活動や体験・交流活動に努める。	地域との連携による奉仕活動(清掃活動、地域行事への積極的な参加) 職場体験(小学校一部、中学校、高等学校一部)	-	B		地域との連携による奉仕活動(清掃活動、地域行事への積極的な参加) 職場体験(小学校一部、中学校、高等学校一部)	-	B		地域の実情に合わせて、地域行事へ積極的に参加したり、地域の清掃活動を実施したりした。市内企業や高等学校と連携し、職場体験や学校支援が行われた。	B	継続して実施する。	学校教育課	
						到達度	3			到達度	3					
						事業効果	3			事業効果	3					
						効率性	3			効率性	3					
	9	放課後子ども教室等の地域における世代間交流活動の提供  琴、門松づくり、しめ縄作り、お餅つき、昔あそび、紙芝居、朗読劇、凧揚げ	公民館活動(家庭学級)や放課後子ども教室等において、地域における世代間の交流により、双方の理解を深める機会の提供を行う。	公民館、放課後子ども教室・輪飾り、門松づくり、しめ縄作り等	-	B		公民館、放課後子ども教室・凧揚げ、昔の遊び、輪飾り、門松づくり、しめ縄作り等	-	B		放課後子ども教室で、地域における世代間交流の機会を提供することができた。また、中学生がボランティアで参加した教室もあり、多様な世代間交流が広がってきている。	B	継続して実施する。	生涯学習課	
						到達度	3			到達度	3					
						事業効果	3			事業効果	3					
						効率性	3			効率性	3					
	10	音楽・演劇などの学校公演による優れた舞台芸術に触れる機会の提供	防府市青少年劇場を開催し、優れた芸術を体験学習する機会を提供する。	・広田智之:オーボエコンサート(11月)牟礼南小、牟礼中 ・原田英代:ピアノコンサート(12月)華浦小、桑山中参加者(延べ1,055人)	597	B		・広田智之:オーボエコンサート(5月)華陽中、小野中 ・原田英代:ピアノコンサート(11月)小野小、佐波小参加者(延べ1,289人)	608	B		防府市出身の優れた演奏家に依頼することで、優れた芸術に触れる機会を安価で提供することができた。  公演募集に応募のない学校がある。	B	学校の積極的な応募を促す。	文化振興課	
						到達度	3			到達度	3					
						事業効果	3			事業効果	3					
						効率性	4			効率性	4					
	11	国際性豊かな人づくりを目的とした姉妹都市間の相互派遣事業の充実	姉妹都市との友好交流を通じて、国際感覚を備えた人材を育成するとともに、姉妹都市間交流事業を実施する団体を支援する。  アメリカ合衆国モンロー市との高校生相互派遣事業等	新型コロナウイルス感染症の影響により、令和4年度も事業を中止した。	-	/		新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、モンロー市と協議の上、令和5年度も事業を中止とした。	-	/		/	A	事業対象者に中学3年生を加えることにより、事業内容を拡充し、より早い段階での学習機会の創出を目指す。	文化振興課	
						到達度	/			到達度	/					
事業効果						/	事業効果			/						
効率性						/	効率性			/						
12	いのちの学習事業の充実	小学生、中学生が、自分の命の起源、家族の育児の様子などについて知ること、自分を大切に他人を思いやる心を持つことができるように助産師、保健師による健康教育を行う。	小学校2校で実施(95人)	-	B		小学校2校で実施(180人)	-	B		計画通り実施できた。アンケート結果からも目的は達成したと評価した。  母子保健を担当する健康増進課、学校、関係機関と課題を共有し、思春期保健の取組み、事業の在り方について検討する必要がある。	C	効果的な事業の内容について、実施体制を検討していく必要がある。	こども相談支援課(健康増進課)		
					到達度	3			到達度	3						
					事業効果	3			事業効果	3						
					効率性	3			効率性	3						
13	思春期子育て講座の開催	中学生の子どもを持つ保護者及び生徒を対象に多様化、深刻化する青少年の問題に対処するため、思春期子育てについて学習する機会を提供する。	思春期子育て講座7～12月にかけて実施実施中学校(9校)(新型コロナウイルス感染症の影響により、2校中止)	90	B		思春期子育て講座7～11月にかけて実施実施中学校(11校)	110	B		概ね計画どおりに事業を実施することができた。また、実施後の生徒や教員の感想からも効果が感じられた。  実施されていない学校がある。	B	継続して実施し、全中学校に周知及び引き続き応募を促す。	生涯学習課		
					到達度	3			到達度	3						
					事業効果	3			事業効果	3						
					効率性	3			効率性	3						
14	ほうふみらい塾の充実	防府で学ぶこと、防府を学ぶこと、防府から学ぶことをとおして、児童生徒の“ふるさと防府”を愛する心を育む。	参加者数15名。「ほうふみらい塾」として8回の基本講座を実施した。オプション講座を4回実施した。	621	B		参加者数37名。「ほうふみらい塾」として10回の基本講座を実施した。オプション講座を3回実施した。	639	B		市内企業や文化財、高等学校と連携して目的達成に向けて実施できた。	B	8回の基本講座と2回のオプション講座を実施する。	学校教育課		
					到達度	3			到達度	3						
					事業効果	3			事業効果	3						
					効率性	3			効率性	3						

内容の 施策の	連番	主な取組	事業説明	4年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (4年度)		5年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (5年度)		評価コメント 課題	今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課	
						到達度	3			到達度	3					事業効果
ウ 成人期・高 齢期におけ る学習機会 の提供	15	市民教養講座等の 勤労者のニーズに 応じた学習機会の 提供	市民教養講座等の就労者が参加しやす い学習環境づくりや職業上必要な知識や 技能の習得に対応した学習メニューの提 供に努める。	・市民教養講座 土曜開講座や夜間講座	-	B		市民教養講座において、就労者が参加し やすいよう、土曜日や夜間にも講座を実 施した。	-	B		計画どおりに講座を実施することができ た。	B	継続して実施する。	生涯学習課	
						到達度	3			到達度	3					
						事業効果	3			事業効果	3					
						効率性	3			効率性	3					
	16	健康教室等の健康 づくりに関する学習 機会の提供	病気に関する講話や予防のための生活 習慣の見直し、運動に関する学習機会を 提供する。  スリムあつぷ教室(生活習慣改善教室)、 健診結果説明会、特定保健指導、健康教 室	生活習慣改善教室の開催:(食事編2回、 運動編4回)参加者(食事編:延18人、運 動編:延66人) 特定保健指導の実施:参加者(32人) 健康教室実施人数:(47回)参加者(延べ 982人)	407	B		生活習慣改善教室の開催:(食事編3回、 運動編4回)参加者(食事編:延32人、運 動編:延57人) 特定保健指導の実施:参加者(51人) 健診結果お渡し会:参加者(17人) 健康教室実施人数:(34回)参加者(延べ 1050人)	501	B		生活習慣改善教室では食生活の振り返り や、日常生活に取り入れやすい運動・食 事の情報提供をができた。特定保健指導 では対象者への電話勧奨を行い、指導に つなげた。	B	生活習慣改善教室の対象者や内容を見 直し、健康づくりに対し関心期にあるお おむね40～64歳の市民を中心に募集し、参 加しやすい内容を検討していく。	健康増進課	
						到達度	3			到達度	3					
						事業効果	3			事業効果	3					
						効率性	3			効率性	3					
	17	ほうふスポーツフェ スタ等の生涯にわ たりスポーツに親し む機会の提供 (No.40に再掲)	誰もが生涯にわたり、それぞれの目的や 状況に応じて、気軽にスポーツに親しむこ とのできる機会の提供を行う。  ほうふスポーツフェスタ、市民体育祭、市 内一周駅伝競走大会等	ほうふスポーツフェスタ2022(10月16日)  市内一周駅伝競走大会(1月8日)  各種大会・教室・講習会	1,200  231  参加費	B		ほうふスポーツフェスタ2023(10月15日)  市内一周駅伝競走大会(1月7日)  各種大会・教室・講習会  ※No.40に再掲	1348  215  参加費	B		前年度よりもさらに参加者が増え、市民に 対してスポーツに親しむ機会を提供でき た。  内容をさらに工夫して実施する必要があ る。	B	参加者に好評なため継続して実施する。	スポーツ振興課	
						到達度	3			到達度	3					
						事業効果	3			事業効果	3					
						効率性	3			効率性	3					
	18	高齢者教室等の高 齢者の生きがいづ くりにつながる学習 機会の提供	高齢者のいきがいづくりとして、公民館に よる高齢者教室や、豊かな老後を創造す ることに寄与するため老人大学校等を開 催する。  高齢者教室	高齢者教室:14公民館で実施(136講座) 参加者(延べ2,252人) 防府市高齢者教室運営委員長研修会: 荒天により中止	5,824	B		高齢者教室:14公民館で実施(1131講 座)参加者(延べ2172人)	5,994	B		各公民館で、概ね計画どおりに事業を実 施することができた。  就労している高齢者が多く、講座の運営 委員、受講生の確保に苦慮している。	B	継続して実施する。	生涯学習課	
						到達度	3			到達度	3					
						事業効果	3			事業効果	3					
						効率性	3			効率性	3					
				老人大学校	老人大学校:(年10講座)参加者(延べ300 人)	200	B		老人大学校:(年10講座)参加者(延べ478 人)	200	B		老人大学校の各講座を通して、高齢者に 対する学びの場を提供することができた。  受講後、地域参加に繋がりが、多くの方 に参加してもらえるような講座内容にする 必要がある。	B	講座内容を見直し、継続して実施する。	高齢福祉課
							到達度	3			到達度	3				
事業効果							3	事業効果			3					
効率性							3	効率性			3					

基本目標	1 いつでもどこでも学べる環境づくり
施策	(2) 多様な学習機会の提供
施策の展開	② 現代的課題に対応する学習機会の充実
施策の方針	現代社会において、問題や課題が複雑かつ多様化していることから、その解決に取り組むうえで発生するニーズに応じた学習活動を支援するための学習機会の提供を図る。

【評価】
評価項目の合計点数をもとに記入
A～Dで評価
【評価項目(到達度、事業効果、効率性)】
それぞれ1～4(点)で評価

※記入要領参照

【今後の方向性】
A. 拡充を図る
B. 現行のまま推進する
C. 事業の改善が必要
D. 計画の見直しが必要

事務事業の進捗状況

内容の連番	主な取組	事業説明	4年度末実施状況	事業費(千円)	評価(4年度)		5年度末実施状況	事業費(千円)	評価(5年度)		評価コメント 課題	今後の方向性	今後の事業への反映	担当課
					到達度	効率性			到達度	効率性				
ア 多様なニーズに対応した学習機会の提供	19	防災出前講座等の安全・安心な暮らしにつながる知識や技術を得るための学習機会の提供  防災出前講座、防府市防災士養成講座、自主防災組織リーダー研修  消費生活講座	・防災出前講座(34回) 参加者(延べ1,059人) ※聞いて得するふるさと講座(自主防災・ハザードマップ)を含む。 ・防府市防災士養成講座(1回:2日間) 受講者 47人 ・防災リーダー研修【1回目】(2回) 受講者 233人【2回目】(2回) 受講者 219人 ・女性向け防災セミナー【地域版】(3回) 大道・牟礼・富海地域 受講者 合計51人	2,558	B		・防災出前講座(61回) 参加者(延べ2,352人) ※聞いて得するふるさと講座(自主防災・ハザードマップ)を含む。 ・防府市防災士養成講座(1回:2日間) 受講者 46人 ・防災リーダー研修(1回) 受講者 142人 ・防府市防災セミナー(1回) わくわく防災体験ツアー(1回) 来場者数 2,014人 ・女性向け防災セミナー【地域版】(3回) 華城・中間・松崎地域 受講者 合計54人	5,470	B		いずれの事業も継続して実施することができた。  市民一人ひとりの安全・安心な暮らしを守るためには、より積極的なPRが必要であると考えている。	B	多様な場面において、積極的なPRに努めたい。	防災危機管理課
					到達度	3			到達度	3				
					事業効果	3			事業効果	3				
					効率性	3			効率性	3				
		・消費生活講座:(3回)参加者(延べ79人) ・出前講座:(3回)参加者(延べ49人) ※高齢者対象	・消費生活講座に代わり、消費生活セミナーを開催(令和5年5月20日(土)ルルサ防府多目的ホール、参加者80人) ・出前講座:(3回)参加者(延べ46人)	10	B		・消費生活講座に代わり、消費生活セミナーを開催(令和5年5月20日(土)ルルサ防府多目的ホール、参加者80人) ・出前講座:(3回)参加者(延べ46人)	367	B		消費者被害防止のため、「契約トラブル・うそ電話詐欺対策セミナー」として初めてオープンセミナーを開催し、多くの市民に参加いただき、楽しく学んでいただけた。  消費者被害防止のためには、知識の取得のみではなく、日常的に消費生活に関心を持ち、自ら考えて行動できる「賢い消費者」を育成する必要がある。	B	相談の多いトラブルをセミナーのテーマにすることで、多くの市民が関心、興味を持って内容にし、より多くの市民の参加を促し、多くの「賢い消費者」の育成をする。	くらし安全課(広報広聴課)
					到達度	3			到達度	3				
					事業効果	3			事業効果	3				
					効率性	3			効率性	3				
	20	防府市社会福祉協議会との連携により、あらゆる世代が参加できるイベントや研修会を通して、啓発活動を行い、住民参加による地域福祉教育の推進  防府市障害者福祉啓発セミナー  防府市地域福祉推進セミナー	防府市障害者福祉啓発セミナー 演題「地域と一緒に暮らすために」～施設から地域へ家庭から地域へ～ 令和4年12月5日(月) 参加者(41人)	-	B		防府市障害者福祉啓発セミナー「あいサポーター研修」 令和5年12月7日(木) 参加者(79人)	-	B		障害者について理解し、手助や配慮を積極的に行うことで、誰もが暮らしやすい社会になることを学んだ。	B	テーマは、情勢や地域の実情に合ったものとし、幅広い分野や世代の参加を促す。	障害福祉課
					到達度	3			到達度	3				
					事業効果	3			事業効果	3				
					効率性	3			効率性	3				
		防府市地域福祉推進セミナー 演題「地域共生社会と地域福祉活動について」 令和5年1月30日(月) 参加者(60人)	地域福祉(福祉の輪づくり運動)推進セミナー ひきこもり支援の正しい知識 8050問題の家族への見守り活動としてのかわり講師 国立大学法人 山口大学大学院医学系研究科保健学専攻 SDS支援システム開発講座 教授 NPO法人ふらっとコミュニティ 代表理事 山根 俊 恵 氏 令和6年1月24日(水) 参加人員 100名(オンライン参加者4名)	65	B		地域福祉(福祉の輪づくり運動)推進セミナー 講演 ひきこもり支援の正しい知識 8050問題の家族への見守り活動としてのかわり講師 国立大学法人 山口大学大学院医学系研究科保健学専攻 SDS支援システム開発講座 教授 NPO法人ふらっとコミュニティ 代表理事 山根 俊 恵 氏 令和6年1月24日(水) 参加人員 100名(オンライン参加者4名)	65	B		・地域共生社会を目指し「丸ごと」取り組みよう、専門機関、生活関連事業所を含め広く周知した結果、企業ボランティア活動モデル推進事業所からも参加を得た。  ・地域での課題が、児童、障害、高齢、ひとり親、引きこもり等多岐に及ぶため、引き続き「我がこと」として地域の状況を把握し課題に合ったテーマで、継続的に実施することが必要である。	B	地域の状況を把握して令和5年度の課題からテーマを決めセミナーを開催する。	福祉総務課(社会福祉課)
					到達度	3			到達度	3				
					事業効果	3			事業効果	3				
					効率性	3			効率性	3				
21	国際交流フォーラムや国際交流フェスティバル等、異文化を理解する機会の提供	多文化と共生できるまちづくりのため、春の国際交流フォーラム、国際交流フェスティバル、国際交流ほうふ周遊バス、在住外国人支援事業、防府市国際交流団体連絡協議会(事務局:国際交流室)が主催する市民及び市内在住外国人を対象とした事業や市民の国際交流活動を支援する。	新型コロナウイルス感染症の影響により、令和4年度も事業を中止した。	-			防府市国際交流団体連絡協議会主催事業として、令和5年10月21日に、国際交流フェスティバルを実施し、飲食やワークショップを通じて、市内外在住の外国人との交流を図ることができた。	326	B		コロナ禍前までに実施していたフェスティバルの来場者数と変わらない実績となり、同時開催であった防府フリーマーケットとの相乗効果も発揮できた。  フェスティバル参加団体の固定化や団体数の減少が懸念され、参加団体の確保が課題である。	B	団体の参加を促進し、防府市国際交流団体連絡協議会が主催する現存の事業を推進する。	文化振興課
					到達度	3			到達度	3				
					事業効果	3			事業効果	3				
					効率性	3			効率性	3				

施策内容	連番	主な取組	事業説明	4年度末実施状況	事業費(千円)	評価(4年度)		5年度末実施状況	事業費(千円)	評価(5年度)		評価コメント		今後の方向性	今後の事業への反映	担当課
						到達度	3			到達度	3	課題				
ア 多様なニーズに対応した学習機会の提供	22	スマートフォンやタブレット端末、パソコン講座等のデジタル社会に対応した学習機会の充実	情報化社会に対応しパソコン等を取り入れた学習機会の充実を図る。 防府地域職業訓練センターパソコン講座 文化福祉会館等パソコン講座	防府地域職業訓練センターパソコン講座 [種目] ワード、エクセル、パワーポイント、インターネット、アクセス、ホームページ、広告・チラシ・POP作成等	-	B		防府地域職業訓練センターパソコン講座 [種目] ワード、エクセル、パワーポイント、インターネット、アクセス、ホームページ、広告・チラシ・POP作成等  ※No.81に再掲	-	B		民間の能力を活用するため、平成26年度から防府地域職業訓練センターにおいて指定管理者制度を導入し、勤労者、求職者等の職業能力の開発及び向上を促進している。 講座内容の充実と効果的なPRが求められる。	B	講座内容の充実と、効果的なPRを図る。	商工振興課	
						到達度	3			到達度	3					
	23	障害のある人が学ぶ機会の充実	障害のある人が、スポーツの楽しさを体験するとともに、市民の障害に対する理解を深め、障害のある人の社会参加を推進するため、山口県障害者スポーツ大会への参加を支援する。 また、防府市社会福祉協議会に委託し、障害のある人にスポーツ、レクリエーション等への参加機会の提供。生活訓練による日常生活能力等の向上を図る。  県障害者スポーツ大会への参加支援、レクリエーション活動、生活訓練、防府市障害者体育大会	山口県障害者スポーツ大会の参加支援 ・11名参加(陸上、水泳、卓球、フライングディスク) ※全国障害者スポーツ大会の派遣選手選考会のみ開催、キラリンピックはコロナにより開催中止  新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催中止(社協委託事業) ・生活訓練 ・レクリエーション活動 ・防府市障害者体育大会	14	C		山口県障害者スポーツ大会の参加支援 ・12名参加(陸上、水泳、アーチェリー、卓球、サウンドテーブルテニス、ボッチャ) キラリンピックの参加支援 ・68名参加(陸上、水泳、フライングディスク)  (社協委託事業) レクリエーション活動 ・150名参加(みかん狩り) 生活訓練 ・10名参加(事業所見学等) 防府市障害者体育大会 ・286名参加	1,251	B		山口県障害者スポーツ大会及びキラリンピックについては、参加申込者の取りまとめ、当日の付き添い等による支援を行った。 社協委託事業については、予定どおり開催し、多くの参加があった。  各行事の参加者はほぼ固定しており、新規参加者が少ない。	B	県障害者スポーツ大会及びキラリンピックについては、関係者へ各大会等への参加を呼びかけるとともに、参加者への支援を行う。 レクリエーション等については、社会福祉協議会と連携し、効果的な事業実施に努める。	障害福祉課	
						到達度	2			到達度	3					
	24	リカレント教育の推進	生涯を通じて知識と時代の変化に応じたスキルを獲得できるリカレント教育を推進する。  各種講座等	公民館学級・教室、文化センター等で各種講座等を実施	-	B		公民館学級・教室、文化センター等で各種講座等を実施	-	B		スマホ講座等、デジタルデバインド解消講座の充実を図った。	B	継続して実施する。	生涯学習課	
						到達度	3			到達度	3					

施策内容	連番	主な取組	事業説明	4年度末実施状況	事業費(千円)	評価(4年度)		5年度末実施状況	事業費(千円)	評価(5年度)		評価コメント 課題	今後の方向性	今後の事業への反映	担当課
						到達度	3			到達度	3				
イ 地域を学ぶ機会の提供	25	公民館学級等の公民館におけるふるさとを学ぶ機会の提供	公民館学級(家庭教育学級・女性学級・高齢者教室)において、地域の歴史や伝統芸能、文化等を学び、教養を高めるとともに、後世に伝える。	公民館学級・教室 地域の歴史 伝統・文化	5,824	B		公民館学級教室において、地域の歴史や文化を学ぶ機械を提供した。	5,994	B		公民館学級で地域の歴史や文化の講座を開催することで、地域住民が地元の歴史等を学ぶ機会を提供することができた  地域の歴史や文化等について習得した知識をいかに後世に伝えていくが課題である。	B	継続して実施する。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
イ 地域を学ぶ機会の提供	26	環境学習講座等の身近な地域の環境に関する学習機会の提供	環境に関する講座メニューや学習資料、啓発資料を必要・要望に応じて柔軟に準備し、幅広い環境学習機会の提供に努める。また、環境教育教材の作成等による環境教育の促進を図る。  環境学習講座の開催 ・水辺の教室、佐波川の植物調べ、樹木医による自然観察会  幸せますウィークにて「交通安全&環境フェスタ」の開催 フリーマーケットにて環境ブースを設置	環境副読本の作成及び各小学校(5年生)への配布。 市内の全市立小中学校において、「緑のカーテン」を育成。 緑花祭やエコまつりにてブースを出展し、啓発活動を実施。 環境学習講座の開催 ・春の花と昆虫調べ ・海洋ごみ発生抑制講座 ・樹木医による自然観察会	1,365	B		環境副読本の作成及び各小学校(5年生)への配布。 市内の全市立小中学校において「緑のカーテン」を育成。 新たに、専門機関と連携した地球温暖化防止教育を市内の5小学校で実施。市立保育所3園でも環境教育を実施。 緑花祭やまほうエコまつりでも専門機関と協力した啓発活動を実施。 環境学習講座の開催 ・佐波川流域の昆虫調べ ・佐波川流域の植物調べ ・海洋ごみ発生抑制講座 ・樹木医による自然観察会 ・出前講座(今日から始める省エネ講座)2件	1,900	B		新たに専門機関と連携することで、より専門的な環境教育を広範囲に実施することができた。また、市立保育所での環境教育を実施することで、広い世代に向けた環境教育を実施できた。  学校等での環境教育は授業で実施するため、学校側の積極的な協力が必要となる。 環境問題を自分事として捉え、行動変容を促すため、効果的な啓発を検討する必要がある。	A	従来の環境教育を継続する外、より広範囲に対して効果的な環境教育ができるように、内容の充実を図る。 令和6年度は気候変動教育モデルづくりの実施を予定している。	環境政策課 (くらし環境課)
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
イ 地域を学ぶ機会の提供	27	放課後子ども教室等における地域学習の機会の充実	学校を支援する活動の一つとして、放課後子ども教室の拡充を図るとともに、カリキュラムの一つとして、地域学習の取入れを行う。	市内13小学校区で放課後子ども教室を実施 各教室年間10日～30日程度で学習活動と体験活動を中心に実施 市内放課後子ども教室への参加児童数(約5,000人)	3,568	B		市内15小学校区で放課後子ども教室を実施。 各教室、年間10日～30日程度で学習活動と体験活動を中心に実施 市内放課後子ども教室への参加児童数(約5,000人)  ※No.106と118に再掲	4,814	B		今年度活動を再開した小学校区が2つあり、市内全小学校区で放課後子ども教室が実施された。活動回数も、昨年度から40回程度増加した。  放課後子ども教室の運営に関わるスタッフが固定化し、実施可能な活動の幅が狭くなっている。	B	引続き情報交換会等により教室間の情報共有や連携に努めるとともに、ボランティア養成講座等の機会を活用し、運営側のスキルアップを図る。放課後子ども教室の様子を保護者や地域の方に周知し、地域の方の運営スタッフへの関心を高め、新規スタッフの増加を図る。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	4				
						効率性	3			効率性	3				
イ 地域を学ぶ機会の提供	28	小・中学校における「防府歴史・文化財読本」の活用促進	社会科や総合的な学習の時間において、「防府歴史・文化財読本」を活用して地域の文化財や歴史的建造物について調べる学習を行うなど、小・中学校における「防府歴史・文化財読本」の活用促進を図る。	社会科や総合的な学習の時間において、「防府歴史・文化財読本」を活用して地域の文化財や歴史的建造物について調べる学習を行っている。	-	B		社会科や総合的な学習の時間において、「防府歴史・文化財読本」を活用して地域の文化財や歴史的建造物について調べる学習を行っている。	-	B		防府市の歴史や文化について調査し、まとめる際に活用している	B	「防府歴史・文化財読本」の活用について、学校計画訪問時に指導する。	学校教育課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	2			効率性	3				
イ 地域を学ぶ機会の提供	29	開いて得するふるさと講座(出前講座)のメニューの充実	市民からの要請に基づき、市職員等を講師として派遣し行政情報等を提供することにより、市民の市政に関する理解を深めるとともに生涯学習意識の啓発を図る。	31課64メニュー 申込件数:112 実施件数:109(3件中止)	22	B		開いて得するふるさと講座 31課64メニュー 申込件数:150(1件の申込で複数の講座の申請あり) 実施件数:153(1件中止)  ※No.2の再掲	22	B		申込数は増加傾向にある。  市民の多様なニーズに応える魅力的な講座となるよう、メニューの見直しが必要である。	B	引き続き、各課に呼びかけを行い、メニューの追加や内容の充実を努める。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				

施 策 の 内 容	連番	主な取組	事業説明	4年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (4年度)		5年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (5年度)		評価コメント 課題		今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課
						到達度	3			到達度	3	到達度	3			
ウ キ ャ リ ア 教 育 の 機 会 の 充 実	30	小・中学校における キャリア教育の計画的な取組の推進  地域との連携による 身近な職場体験学習 の機会を提供  商工会議所、職場 体験学習受入企業 等との連携協力体制 の構築  地域・学校・企業等 の協働によるさま ざまな体験活動の推 進	児童生徒一人ひとりが自らの生き方について考え、夢や志を育むよう、教育活動全体を通じて、発達段階に応じて系統的・計画的なキャリア教育を推進する。 社会見学・職場体験学習・福祉体験学習等の充実を図るため、商工会議所・職場体験学習受入事業所等との連携協力体制を構築する。 児童生徒1人ひとりの成長と、小・中学校9年間を見通した指導を推進するとともに、保護者や地域の人材を有効に活用した学習活動を推進する。	新型コロナウイルス感染症対策のため中学校6校の職場体験実施にとどまった。代替として、事業所訪問や職業講話を各中学校が工夫して実施。 職場見学は全ての小学校において実施。	-	B		小学校は、全ての学校で職場見学を実施。 中学校では、9校で職場体験を実施。実施していない学校も職業講話など、地元企業や高等学校と連携して代替となる活動を実施。	-	B		市内小・中学校において家庭・地域と連携しながらキャリア教育に取り組んだ。  小中キャリア教育部会と連携し、平成28年度に作成した防府市キャリア教育実践事例集の活用を推進するとともに、児童生徒の発達の段階に応じた職場体験学習等の実施を推奨する。	B	学校教育課		
						到達度	3			到達度	3					
						事業効果	3			事業効果	3					
						効率性	3			効率性	3					
31	市役所での職場体験学習の機会の提供	職場体験学習(インターンシップ)による就業体験を通して学生の職業意識の向上を図るとともに、市政に対する理解を深めることを目的として実施する。 ワークフォーラム(職業講話)を中学校や高校で実施し、市役所の仕事内容や魅力、学生に身につけてほしい考え方などを伝える。	【職場体験学習】 牟礼中学校1年生3名(1日) 【インターンシップ】 【大学・専門・高専】 ※県インターンシップ推進協議会と連携して実施 【職業講話】 市役所の仕事内容や魅力、学生に身につけてほしい考え方などを伝える。 桑山中学校(35分) 講師:人事課人事研修係	-	B		【職場体験学習】 牟礼中学校1年生3名(1日) 国府中学校2年生5名(1日) 防府総合支援学校1年生2名(1時間) 【インターンシップ】 【大学・専門・高専】 (夏季:8校18人、春季:5校7人) ※県インターンシップ推進協議会と連携して実施 【職業講話】 市役所の仕事内容や魅力、学生に身につけてほしい考え方などを伝える。 防府高等学校(1時間) 講師:人事課人事研修係	-	B		中高生の職場体験学習が9校増えたことで、より若い世代の人に市役所の仕事に触れる機会を増やすことができた。  夏休み時期にインターンが集中するため、各課への受入調整が厳しく、学生が希望する日程や部署での受入ができない場合がある。	B	学校、協議会と連携し、学生の要望を事前に調査・把握したうえで、受入計画を作成する。 受入部署に制度の趣旨・メリットについて周知し、協力を依頼する。	人事課		
					到達度	3			到達度	3						
					事業効果	3			事業効果	3						
					効率性	3			効率性	3						
32	人権学習市民セミナーの開催等の市民ぐるみでの積極的な人権学習の推進	市民、人権学習推進市民会議員、人権学習推進委員を対象として、さまざまな人権課題のテーマについて講師を招聘し、市民セミナーや講演会を行う。	市民セミナー(4回):参加者194人 講演会:参加者161人 市民会議総会:参加者164人	785	B		市民セミナー(4回):参加者283人 講演会:参加者151人 市民会議総会:参加者164人	824	B		新たに防府市メールサービスを活用するなど広報活動を工夫しながら、市民セミナー、講演会、市民会議総会、講演会とも予定通り開催することができた。  市民セミナーや講演会への参加者数を増やす必要がある。	B	さまざまな人権課題について、バランスよくかつ、市民のニーズも踏まえた講師選定を行い、さらなる周知拡大を図る。	生涯学習課		
					到達度	3			到達度	3						
					事業効果	3			事業効果	3						
					効率性	3			効率性	3						
エ 人 権 学 習 の 推 進	33	地域や団体、職場等で研修会を企画・運営し、人権意識の高揚と啓発活動を担う人権学習推進委員を対象に、情報交換、実践活動をもとにした研修会を行う。	人権学習推進委員研修会(3回):参加者(延べ89人)	287	B		人権学習推進委員研修会(4回):参加者(延べ98人)	332	B		予定していた4回の研修会を予定通り開催することができた。  研修会への人権学習推進委員の参加者を増やす必要がある。	B	研修内容の充実を図り、継続して実施する。	生涯学習課		
					到達度	2			到達度	3						
					事業効果	3			事業効果	3						
					効率性	3			効率性	3						
34	人権学習指導員の派遣や人権学習教材の貸出等の人権学習への支援	地域や団体、職場等で実施される研修会への人権学習指導員の派遣や人権学習教材の充実・貸出を行う。	人権学習指導員の派遣:(44回) 人権学習教材の貸出:(39本)	79	B		人権学習指導員の派遣:(57回) 人権学習教材の貸出:(89本)	91	B		人権学習指導員の派遣について、幼児対象や小学校低学年向けのプログラムを作成し、実施することができた。学習教材の貸出については、予定通り充実を図ることができた。  地域や職場での研修会の実施回数をさらに増やす必要がある。	B	継続して事業所や地域への周知を図り、人権学習への支援の拡大を図る。	生涯学習課		
					到達度	3			到達度	3						
					事業効果	3			事業効果	3						
					効率性	3			効率性	3						
35	ジェンダー平等に関する「聞いて得するふるさと講座(出前講座)」等の推進	ジェンダー平等に関して、聞いて得するふるさと講座(出前講座)等の活用を推進する。	「聞いて得するふるさと講座(出前講座)」男女共同参画社会について、1メニュー男女共同参画社会を含む人権全般について、4メニュー講座実施回数:11回	-	B		「聞いて得するふるさと講座(出前講座)」男女共同参画社会について、1メニュー男女共同参画社会を含む人権全般について、4メニュー講座実施回数:12回(内出前講座5回)	-	B		人権学習室と申込者が講座の内容について、事前に確認する機会を設けることで、申込者の要請通り実施することができた。  より多くの方に活用してもらえるように周知を図っていく必要がある。	B	関係機関等への周知を図り、継続して実施する。	生涯学習課		
					到達度	3			到達度	3						
					事業効果	3			事業効果	3						
					効率性	3			効率性	3						

施策内容	連番	主な取組	事業説明	4年度末実施状況	事業費(千円)	評価(4年度)		5年度末実施状況	事業費(千円)	評価(5年度)		評価コメント		今後の方向性	今後の事業への反映	担当課
						到達度	3			到達度	3	課題				
オ 文化・芸術に触れる機会の充実	36	市民文化祭や障害者ふれあい芸術展等、文化・芸術に親しみ、参加・活動できる機会の提供	アスピラートの指定管理者である防府市文化振興財団に企画・運営を委託し、文化事業を行う。 コンサートツアー、文化講演会、美術鑑賞バス、音楽祭等	防府市文化振興財団文化事業(45事業) ・音楽祭 ・文化講演会 ・美術展示 ・セミナー他	103,425	B		防府市文化振興財団文化事業(41事業) ・音楽祭 ・文化講演会 ・美術展示 ・セミナー他	112,346	B		防府振興財団に企画・運営を委託することで、「鑑賞」、「育成」、「普及」、「発表・支援」といった文化事業を提供することができた。 多彩な企画・運営の検討が必要である。	B	より多くの市民が参加できるよう企画する。	文化振興課	
						到達度	3			到達度	3					
	36	障害者ふれあい芸術展	防府市障害者ふれあい芸術展 ・令和5年2月11日～12日開催 応募総数 156点	-	B		防府市障害者ふれあい芸術展 ・令和6年2月3日～4日開催 応募総数 137点 ※No.98に再掲	-	B		報道機関等に芸術展の開催を案内し、PRを行った。 参加者や団体が固定化する傾向があり、新規参加者への呼びかけを積極的に行う必要がある。	B	市広報等に開催記事を掲載し、作品の募集及び来場について周知を行う。	障害福祉課		
					到達度	3			到達度	3						
37	文化・芸術団体の活動支援と各団体間の連携・交流の促進	文化・芸術に関する全国大会参加及び市内各種大会の開催支援を行う。また、文化芸術の集合体である防府市文化協会の支援を行う。 山口県芸術演奏会開催経費補助金、防府市文化協会運営補助金等	・全国大会等出場支援助成金 ・防府市文化協会運営補助金 ・市民文化祭に対する開催経費補助金	7,177	B		・全国大会等出場支援助成金 ・防府市文化協会運営補助金 ・市民文化祭に対する開催経費補助金	7,895	B		全国大会に出場する団体への助成や防府市文化協会への支援を行うことで、文化・芸術に触れる機会の充実につながった。 恒例ではない事業への支援を行う必要がある。	B	関係団体からの情報を受ける機会を増やす。	文化振興課		
					到達度	3			到達度	3						
38	山口県青少年劇場の活動支援と各団体間の連携・交流の促進	山口県青少年劇場や文化庁「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」等を活用し、伝統文化の学習機会を提供する。また、防府市文化協会(防府民族芸能連盟)の活動を支援し伝統文化の継承を推進する。 山口県青少年劇場、文化芸術による子供の育成事業等	・文化芸術による子供の育成総合事業【芸術家の派遣事業】 牟礼中、牟礼小、小野小	-	B		・文化芸術による子供の育成総合事業【芸術家の派遣事業】 華城小	-	B		伝統文化の学習機会を提供することで、子供の育成事業を推進した。 公演募集に応募のない学校がある。	B	学校の積極的な応募を促す。	文化振興課		
					到達度	3			到達度	3						
39	企業等との連携・協働による文化・芸術活動の支援	市広報を活用して、「メセナ活動」(芸術文化支援)として企業・団体・個人から会員を募り、防府市に在住する団体、個人及び防府市出身者による文化・芸術活動を支援する。	6月、11月と2回助成希望団体を募集。(申請団体なし)	-	C		6月、11月と2回助成希望団体を募集。4件の申請があり4件とも採択された。	-	B		市広報を活用して助成希望団体を募り、申請団体に対し文化・芸術活動を支援した。 事業の周知が必要である。	B	より多くの団体が利用できるよう、広く制度周知を図る。	文化振興課		
					到達度	2			到達度	3						

施策内容	連番	主な取組	事業説明	4年度末実施状況	事業費(千円)	評価(4年度)		5年度末実施状況	事業費(千円)	評価(5年度)		評価コメント		今後の方向性	今後の事業への反映	担当課
						到達度	効率性			到達度	効率性	課題				
カ 生 涯 ス ポ ー ツ の 推 進	40	ほうふスポーツフェスタ等の生涯にわたりスポーツに親しむ機会の提供(No.17の再掲)	誰もが生涯にわたり、それぞれの目的や状況に応じて、気軽にスポーツに親しむことのできる機会の提供を行う。 ほうふスポーツフェスタ、市内一周駅伝競走大会等	ほうふスポーツフェスタ2022(10月16日) 市内一周駅伝競走大会(1月8日) 各種大会・教室・講習会	1,200 231 参加費	B		ほうふスポーツフェスタ2023(10月15日) 市内一周駅伝競走大会(1月7日) 各種大会・教室・講習会 ※No.17の再掲	1348 215 参加費	B		前年度よりもさらに参加者が増え、市民に対してスポーツに親しむ機会を提供できた。 内容をさらに工夫して実施する必要がある。	B	参加者に好評なため継続して実施する。	スポーツ振興課	
	41	トップアスリートを誘致した大会やイベントの開催	トップアスリートを誘致した大会やイベントの開催 レノファ山口FCの防府市サンクスデーにおける試合観戦の支援	マラソンの川内優輝選手 中高生向け講演会実施し、およそ250名の参加者があった。 レノファ山口FCの防府市サンクスデーにおいて、観戦支援として、市内の親子を招待した。(ペアチケット50組100名)	791	B		レノファの関係者によるサッカー教室を実施し、およそ40名の参加者があった。 レノファ山口FCの防府市サンクスデーにおいて、観戦支援として、市内の親子を招待した。(ペアチケット50組100名)	201	B		レノファと協働でプロスポーツに触れ合う機会を創出した。	B	今後も継続して実施する。	スポーツ振興課	
	42	高齢者や障害のある人がスポーツをする機会の拡大	スポーツ協会や指定管理者による高齢者が取り組みやすい定期教室等の開催 いきいきシルバーふれあいスポーツ大会 障害のある人が取り組みやすいスポーツ体験会等の開催 障害体育大会、風船バレーボール大会	いきいきシルバーふれあいスポーツ大会について、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	-			いきいきシルバースポーツ大会について雨天により中止	-				開催の準備を進めていたが、天候不良により中止となった。	B	関係機関と連携し、継続して実施する。	高齢福祉課
	42	高齢者や障害のある人がスポーツをする機会の拡大	スポーツ協会や指定管理者による高齢者が取り組みやすい定期教室等の開催 いきいきシルバーふれあいスポーツ大会 障害のある人が取り組みやすいスポーツ体験会等の開催 障害体育大会、風船バレーボール大会	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 ・防府市障害者体育大会(社協委託事業) ・風船バレーボール大会	-			・防府市障害者体育大会(社協委託事業) 市内在住の障害者やその家族など286人が参加した。 ・風船バレーボール大会 市内の障害者団体、障害福祉サービス事業所から5団体7チーム56人が出場した。	539	B			いずれの事業も、市内在住の障害のある人が、運動を通してともに助け合いながら交流を深めることができた。 各行事の参加者はほぼ固定しており、新規参加者が少ない。	B	関係者に大会への参加を呼びかけるとともに、社会福祉協議会等の関係団体と連携し、効果的な事業実施に努める。	障害福祉課
43	防府読売マラソン大会等でのボランティア体験機会の提供等、スポーツボランティアに関する情報の提供 (No.83に再掲)	防府読売マラソン大会等でのボランティア体験機会の提供等、スポーツボランティアに関する情報の提供 学校や地域、企業との連携による人材確保	新型コロナウイルス感染症の感染状況を加味し、広く一般ボランティアを募集するのではなく、日常から時間を共有する団体を対象にボランティアを実施した。	-	B		地域や企業によるボランティアを募集し、人材を確保した。 No.83に再掲	-	B			JMCシリーズ男子グレード1、女子グレード3となり、大会運営にも多数の人員が必要となったことで、多数のボランティアの参加があった。 大会HP等での告知、周知を行い、掘り起こしを行う必要がある。	B	継続して実施する。	スポーツ振興課	
44	公民館等、各地域におけるスポーツ活動の支援	公民館等、各地域におけるスポーツ活動の支援 貸館業務等	各種団体に公民館等を活動の場として提供した。	-	B		公民館等、各地域におけるスポーツ活動の支援 貸館業務等	-	B			市民の要望に対して活動場所の提供を適切に行っている。	B	継続して実施する。	生涯学習課	

基本目標	1 いっでもどこでも学べる環境づくり
施策	(3) 生涯学習関連施設の整備・充実
施策の展開	① 公民館の整備・充実
施策の方針	地域住民の学習ニーズに応えるため、社会教育主事等の配置により、地域課題に対応した学習機会の提供や地域情報の収集、学習情報の提供に努めると共に地域活動の拠点施設としての機能の充実に努める。

【評価】
評価項目の合計点数をもとに記入
A～Dで評価
【評価項目(到達度、事業効果、効率性)】
それぞれ1～4(点)で評価

【今後の方向性】
A. 拡充を図る
B. 現行のまま推進する
C. 事業の改善が必要
D. 計画の見直しが必要

※記入要領参照

事務事業の進捗状況

実施内容	連番	主な取組	事業説明	4年度末実施状況	事業費(千円)	評価(4年度)	5年度末実施状況	事業費(千円)	評価(5年度)	評価コメント	今後の方向性	今後の事業への反映	担当課		
										課題					
ア 公民館の整備・充実	45	公民館だより等による学習情報発信の充実	社会教育指導員等による学習機会の提供や地域情報の収集、学習情報の提供に努める。 公民館だよりの作成、ホームページによる情報発信等	公民館だよりの作成、ホームページの更新による情報発信	-	B	公民館だよりの作成、ホームページの更新による情報発信を行った。	-	B	公民館だよりの作成、ホームページの更新による情報発信	B	ホームページの内容充実に努める。	生涯学習課		
														到達度	3
														事業効果	3
														効率性	3
	46	牟礼公民館の建替え等、公民館の計画的な整備・改修と適正な維持管理	公民館の老朽化に伴い、計画的な整備・改修を行い、適正な維持管理に努める。	新小野公民館の供用開始 各公民館の修繕を随時実施 牟礼公民館の建替事業に着手	50920	B	各公民館の修繕を随時実施 牟礼公民館の建替事業(設計業務) 照明器具のLED化(富海、右田、野島)	75,627	B	公民館の建替えは概ね計画通りに事業を実施することができた。	B	小規模修繕や緊急性の高い箇所改修を行い、施設の維持管理に努める。また、牟礼公民館建替え後、計画的に公民館を整備するため、検討を進める。	生涯学習課		
														到達度	3
														事業効果	3
														効率性	3
	47	講座やサークル活動等、自治会や関係団体等との連携・協働による多様な学習の場の提供	自治会や関係団体等の活動を支援し、公民館における地区住民の多様な学習の場づくりに努める。 各種学級、教養講座等	各種学級 教養講座 サークル活動他 青少年協会の活動の支援 子ども会活動の支援	5824	B	各種学級 教養講座 サークル活動他 青少年協会の活動の支援 子ども会活動の支援	-	B	概ね計画どおりに事業を実施することができた。	B	継続実施する。	生涯学習課		
														到達度	3
														事業効果	3
														効率性	3
48	公民館職員のICT(情報通信技術)に関するスキルアップの機会の充実	公民館職員のICT(情報通信技術)に関する研修等に努める。	未実施	-	未実施	-	-	-	-	-	B	公民館職員のICTに関するスキルアップの機会の確保について、現状を踏まえて検討する。	生涯学習課		
														到達度	
														事業効果	
														効率性	
49	ICT(情報通信技術)の活用による行政相談や地域情報の発信、地域活動の支援	タブレット端末で公民館と市役所窓口をオンライン接続することにより、地域の困りごとの相談をはじめとする行政相談や補助、助成制度の申込、地域情報の発信、地域活動の支援に努める。	市役所37台、市内全公民館15台のタブレット端末を設置し、年間40件のオンライン相談対応	-	B	市役所37台、市内全公民館15台のタブレット端末を設置し、年間20件程度のオンライン相談対応	-	B	利用された方から、高評価をいただいている。	B	本庁職員側からオンライン相談できる案件を積極的に情報発信するよう促す。	地域振興課			
													到達度	2	
													事業効果	2	
													効率性	3	
50	高齢者等を対象にしたスマートフォン・タブレット端末講座の開催	高齢者等を対象にしたスマートフォン・タブレット端末講座を開催する。	ルルサス文化センター、各公民館で、スマートフォン・タブレット端末についての講座を実施	-	B	ルルサス文化センターでスマートフォン講座を実施した。	-	B	参加者から好評をいただいている。	B	継続実施する。	生涯学習課			
													到達度	3	
													事業効果	3	
													効率性	3	
	51	ルルサス防府での市民教養講座等の新設及び拡充	文化福祉会館の一部機能をルルサス防府へ移転し、市民教養講座などの新設や内容の充実による新たな魅力の創造に努める。	ルルサス文化センターにおいて、講座を増設 ・文化センター短期講座 ・市民教養講座	2590	A	市内全公民館15館、ルルサス防府、Y-BASE防府サテライトで全51回高齢者向けスマホ教室を開催	3,299	A	会場や教室内容によっては募集開始後すぐに予約が埋まるほど盛況だった。また参加者の満足度も高かった。	A	参加希望者のニーズにあわせた教室内容の見直しを行う。 あわせて、スマートフォンを活用した情報共有など、自治会活動の利便性の向上を図るため、自治会向けのスマホ教室を開催する。	デジタル推進課		
														到達度	4
														事業効果	4
														効率性	4
51	ルルサス防府での市民教養講座等の新設及び拡充	文化福祉会館の一部機能をルルサス防府へ移転し、市民教養講座などの新設や内容の充実による新たな魅力の創造に努める。	ルルサス文化センターにおいて、講座を増設 ・文化センター短期講座 ・市民教養講座	135	B	ルルサス文化センターにおいて、講座を増設 ・文化センター短期講座 ・市民教養講座	-	B	市民の多様なニーズに対応するため、歴史、健康、デジタル、手芸等様々な内容の講座を実施した。	B	引き続き市民のニーズに応じた講座の開催に努める。	生涯学習課			
													到達度	4	
													事業効果	4	
													効率性	4	

基本目標	1 いつでもどこでも学べる環境づくり
施策	(3) 生涯学習関連施設の整備・充実
施策の展開	② 図書館の充実
施策の方針	本市の特色を生かした資料の収集をはじめ、利用者ニーズに対応した幅広い資料の充実・整備を図るとともに利用者サービスの質的向上を図る。市民との協働を推進し、他の図書館や教育文化施設・機関等との相互協力・連携を推進する。積極的な情報発信を図るとともに子どもの読書活動を推進する。

【評価】
評価項目の合計点数をもとに記入
A～Dで評価
【評価項目(到達度、事業効果、効率性)】
それぞれ1～4(点)で評価

【今後の方向性】
A. 拡充を図る
B. 現行のまま推進する
C. 事業の改善が必要
D. 計画の見直しが必要

※記入要領参照

事務事業の進捗状況

施策内容	連番	主な取組	事業説明	4年度末実施状況	事業費(千円)	評価(4年度)		5年度末実施状況	事業費(千円)	評価(5年度)		評価コメント 課題	今後の方向性	今後の事業への反映	担当課		
						到達度	効率性			到達度	効率性						
ア 図書館機能の充実	52	図書・視聴覚資料や雑誌・新聞等、図書館資料の質・量両面の充実	図書・視聴覚資料や雑誌・新聞の充実を図る。防府市関連の事項・人物等に関する資料、行政関係資料などの郷土(地域)資料の充実を図るとともに、電子書籍の普及に伴い変化する資料提供サービスへの対応を図る。	図書館資料整備計画表による資料の充実 新刊図書10,882冊、雑誌303誌、新聞19紙購入 年間貸出者数(延べ138,034人)、貸出冊数(531,343冊)  10月1日から、防府市電子図書館を開設した。防府史料等の郷土資料は電子図書館から閲覧できるように移行した。蔵書冊数1,120冊(うち郷土資料165冊)	-	B	到達度	3	図書館資料整備計画表による資料の充実 新刊図書9,761冊、雑誌303誌、新聞19紙購入 年間貸出者数(延べ135,478人)、貸出冊数(510,519冊)  防府市電子図書館の蔵書冊数2,053冊(うち郷土資料241冊)  電子図書館の普及のため、図書館見学の時や大人のくらし塾前期講座で電子図書館の説明や体験の場を設けた。  電子図書館の利用が伸び悩んでいたが、右田小学校で利用されるようになり、貸出が増加した。これに伴い、児童書の充実を図った。	-	B	到達度	3	図書館利用サークル「おはなしてんしゃ」が制作した防府市に関する紙芝居5点を、複製・製本し、郷土資料として貸出しができるようにした。  今年度から、音訳ボランティアグループ「翠の会」が障害者向けに作成した郷土作家4名の著作の音訳カセットテープを、順次デジタルデータに変換し、電子図書館用に編集したものを音声資料として登録している。今年度は、山根基世の作品2点を貸出しできるようにした。  電子図書館の普及のため、図書館見学の時や大人のくらし塾前期講座で電子図書館の説明や体験の場を設けた。  電子図書館の利用が伸び悩んでいたが、右田小学校で利用されるようになり、貸出が増加した。これに伴い、児童書の充実を図った。	B	郷土資料の収集を推進する。  電子図書館の資料の充実を図る。  音訳カセットテープのデジタルデータへの変換と編集、電子図書館への登録を引き続き行う。  電子図書館の利用普及の方策を講ずる。特に、市内小中学校への広報に重点を置く。  書庫の整理計画を立てる。	教育総務課
							事業効果	3				事業効果	4				
							効率性	3				効率性	3				
							到達度	3				到達度	3				
ア 図書館機能の充実	53	レファレンス・サービス等の利用者サービスの充実	レファレンス・サービスの充実に努め、資料提供サービス・情報提供サービスの質的向上を図るとともに、Webサービスの充実に努める。 移動図書館車でのサービス向上に努めるとともに、地域文庫・貸出文庫の利用促進を図る。 障害者や高齢者へ配慮したサービスの推進に努める。	移動図書館車 6コース・37ステーションを2週間に1回運行。 また、「みんな集まれ!はたらく車展」「西浦まつり」「玉祖小学校」に出張した。	-	B	到達度	3	移動図書館車 6コース・37ステーションを2週間に1回運行。 また、「大道まつり」「玉祖小学校」に出張した。	-	B	到達度	3	事故やトラブルが無いよう、車両の整備や安全確認に努めた。  利用が減少傾向にある小中学校へ、利用の働きかけをする。	教育総務課		
							事業効果	3				事業効果	3				
							効率性	3				効率性	3				
							到達度	3				到達度	3				
ア 図書館機能の充実	54	防府市図書館協議会の設置等、図書館事業への市民参画の促進と活用	行事運営などで市民との協働を推進するとともに、防府市図書館協議会の設置により、図書館事業へ広く市民の声が反映されるよう努める。定期的に開催する行事・講習会等を通じて、ボランティアの養成・育成を図る。	図書館ボランティア養成講座の開催(2/2・9・16・23 参加者 延べ52人)  防府図書館ボランティア連絡会議の開催(1/26 参加者15人)	-	B	到達度	3	図書館ボランティア養成講座の開催(2/1・15・22・26 参加者 延べ40人)  防府図書館ボランティア連絡会議の開催(1/25 参加者14人)	-	B	到達度	3	新規参加者が少ないため、ボランティア団体への加入にはつなげていない。  図書館ボランティアとの連携を密にする。	教育総務課		
							事業効果	3				事業効果	3				
							効率性	3				効率性	3				
							到達度	3				到達度	3				
ア 図書館機能の充実	55	学校図書館等の教育文化施設との連携の促進	資料や情報を的確に提供するため、学校図書館ほかの図書館や施設・機関等との相互協力の推進を図る。	学校支援図書 年間貸出件数(延べ733件)、貸出冊数(4,213冊)  選書会の実施	-	B	到達度	3	学校支援図書 年間貸出件数(延べ733件)、貸出冊数(4,213冊)  選書会の実施	-	B	到達度	3	利用件数は増加した。  学校支援図書の質・量の充実、利用方法の周知と利用促進のためのPRが必要。	教育総務課		
							事業効果	3				事業効果	3				
							効率性	3				効率性	3				
							到達度	3				到達度	3				

内容の 施策の	連番	主な取組	事業説明	4年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (4年度)		5年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (5年度)		評価コメント 課題	今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課
						到達度	事業効果			到達度	事業効果				
ア 図書館機能の 充実	56	企画展示や集会・文化活動及びホームページ等による広報活動の推進	企画展示や集会・文化行事、図書館資料を活用する生涯学習グループの奨励・育成等の事業を拡充し、図書館の多角的な利用促進を図るとともに、ホームページの内容充実、各種報道メディア等の活用を通し、積極的な情報発信に努める。長年郷土の歴史資料を翻刻してきた「防府史料」シリーズの刊行を継続するとともに、ホームページに掲載し、情報発信の充実を図る。	9月末にホームページをリニューアルした。 1月からInstagramでの発信を開始した。 図書館施設・設備・資料の利用等支援（登録サークル数28団体） サークルの研修会等で図書館職員によるブックトーク等を行った。 【文化行事】 ・上映会「月いちキネマ」を毎月1回実施した。休憩中には、映画に関連する図書を紹介するブックトークも行った。8月は子ども向け、12月はバリアフリー上映（全12回参加者 延べ182人） ・「大人のくらし塾」を開催した。前期「年賀状に使える消しゴムはんこ作り」（11/10、11/24、参加者27人）、後期「スマホで写真編集してみよう」（2/10、2/11 参加者29人） ・「利用者懇談会」を実施し、図書館の運営状況報告や電子図書館の紹介をするのと同時に、より身近で利用しやすい図書館になるよう利用者の意見や提言を聞く機会を設けた。（12/1 参加者11人） ・直木賞作家の今村翔吾氏が企画した「今村翔吾まつり旅」に応募し、今村氏による講演会「歴史から物語ができるまで」をアスピラート音楽ホールで開催した。（6/8 参加者359人） ・県央連携都市圏域図書館利活用推進事業の一環で「図書館で学ぶナナシマチの歴史」に参加し、講演会「種山山頭火の	-	B	到達度 3	事業効果 3	効率性 3	-	B	Instagramでお知らせや、図書館または本に親しみを持つような情報を随時発信した。 職員によるブックトークは、それぞれが研鑽を積み、テーマに則したわかりやすく興味を引く本の紹介ができた。 多様な文化行事を実施し、いずれも概ね好評だった。 【文化行事】 ・上映会「月いちキネマ」を毎月1回実施した。休憩中には、映画に関連する図書を紹介するブックトークも行った。8月は子ども向け、12月はバリアフリー上映（全12回参加者 延べ118人） ・「大人のくらし塾」を開催した。前期「電子図書館体験会」（9/29、9/30 参加者6人）、後期「はじめてでも楽しい！心が伝わる絵手紙講座」（1/26、1/27 参加者21人） ・「利用者懇談会」を実施し、図書館の運営状況報告をするのと同時に、より身近で利用しやすい図書館になるよう利用者の意見や提言を聞く機会を設けた。（11/30 参加者8人） ・県央連携都市圏域図書館利活用推進事業でスタンブラリー（10/28～12/28）を実施し、関連事業として図書館コンサート「詩とともに音楽を愉しむ」を開催した。（11/26 参加者88人）	B	ホームページの更新、Instagramでの情報発信を適時行う。 引き続き、サークル活動の支援に努める。 出張サービスの広報と積極的な受け入れに努める。	教育総務課
	57	「第3次防府市子ども読書活動推進計画」に基づく、子ども読書活動の推進	市の関係各課、小・中学校及び各関係機関との連携を図り、子どもの読書活動に係る各種事業を展開する。	【児童サービスの充実】 ・防府市子ども読書フェスティバルで、追悼座談会「児童文学作家・那須正幹さんを偲んで」を実施。おはなし会やワークショップ、那須正幹作品のブックトーク、関連展示も行った。 ・チャレンジ！調べる学習の実施（7/10、8/6 参加者43人） ・図書館を使った調べる学習コンクールの開催（小学生27作品、中学生9作品） ・読書感想文教室の開催（7/24・31 参加者28人） ・子ども図書館員の実施（7/25、8/1 参加者31人） ・マナーアップキャンペーンの実施（7/6～8/31 達成67人、参加者550人） ・ピブリオバトルの開催 1回目：小学生から大人まで（11/3 参加者20人） 2回目：小学生から大人まで（3/19 参加者33人） ・毎月第3日曜日（家庭の日）にさんさんおはなし会を開催（全11回 参加者 平均大人10人・子ども8人） ・クリスマスおはなし会の開催（12/18 参加者22人） ・「読書感想文のヒント」（公財）防府市文化振興財団が管理運営するソラールとの連携事業として、両館に、科学分野の課題図書と、学芸員と司書それぞれの視点からの感想文の着眼点等をパネルにして展示。（7/6～9/5） ・防府図書館サークルの会員募集チラシの作成・配布	-	B	到達度 3	事業効果 3	効率性 3	-	B	児童サービスは、参加型のイベントを多く企画し、年々内容を充実させている。 今年度の防府市子ども読書フェスティバル「よしながこうたく氏のライブイベント」では、個性的で楽しい講師の誘導で、子どもたちは積極的に楽しみながら参加し、皆でユニークな作品を完成させた。完成作品は館内で展示した。 各種事業の継続。	B	子ども読書フェスティバルでは、山本孝氏によるワークショップなどを実施する。	教育総務課

基本目標	1 いつでもどこでも学べる環境づくり
施策	(3) 生涯学習関連施設の整備・充実
施策の展開	③ 博物館等の充実
施策の方針	防府市の科学教育普及活動の拠点施設として、防府市青少年科学館(ソラール)の利用促進のため、展示物等の施設設備の充実を図り、科学教室の開催、小・中学校への理科教育支援、企画展の開催などを行い、創造性豊かな青少年の育成と市民の科学技術に関する知識の普及及び啓発を図る。 防府市文化財郷土資料館は、講座や体験学習の充実、文化財情報の発信に努める。また、文化財の保護・保存、継承、有効活用を図る。

【評価】
評価項目の合計点数をもとに記入
A～Dで評価
【評価項目(到達度、事業効果、効率性)】
それぞれ1～4(点)で評価

※記入要領参照

【今後の方向性】
A. 拡充を図る
B. 現行のまま推進する
C. 事業の改善が必要
D. 計画の見直しが必要

事務事業の進捗状況

内容 の 連番	主な取組	事業説明	4年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (4年度)	5年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (5年度)	評価コメント		今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課
									課題				
ア 青少年 科学館・ 文化財郷 土資料館の 充実	58	幅広い分野での充実した科学教室の開催	防府市の科学教育普及活動の拠点施設として、科学教室の開催、小・中学校への理科教育支援を行い、科学技術に関する知識の普及及び啓発を図る。また、利用促進のため、施設設備の更新充実に努める。 「工作教室」「科学教室」「サイエンスアカデミー」等	-	B 到達度 3 事業効果 3 効率性 3	天体観察教室等の科学教室を毎回テーマを変える等、さまざまな分野の教室を実施 ・年間利用者数(延べ32,530人) ・ソラール出前講座(42回)	-	B 到達度 3 事業効果 3 効率性 3	科学教室やロボット展、サイエンスショーや出前講座等を実施し、来館者は増加した。 多様な出前講座の依頼に対応するため、指導員の育成及びスキルアップが必須である。	B	必要な知識・技術を持った指導員の育成及びスキルアップの支援による事業の充実を図る。	生涯学習課	
	59	魅力ある企画展の開催	防府市青少年科学館の利用を促進するため、企画展(特別事業等)を開催する。	-	B 到達度 3 事業効果 3 効率性 3	青少年科学館 ・特別事業(4回)	-	B 到達度 3 事業効果 3 効率性 3	特別展や企画展を開催し、来館者は増加した。 企画展の種類によって入館者数に差がある。	B	より魅力ある企画展を実施する。	生涯学習課	
	60	ホームページ等を活用した文化財情報の発信	常設展・企画展・巡回展を開催する。開催にあたっては、市広報やホームページ、ポスター、リーフレット等により広報を行う。	市広報やホームページに掲載するとともに、市内の小・中学校等へポスターやリーフレット等で広報し、常設展・企画展等を開催した。 ・4/23～10/2まで 企画展「源平から鎌倉へ～そのとき防府は～」 ・8/2～9/11まで ソラール出張展示 ・10/8～ 常設展(リニューアル) 令和4年度文化財郷土資料館展示観覧者数(1,720人)	466	B 到達度 3 事業効果 4 効率性 2	市広報やホームページに掲載するとともに、市内の小・中学校へポスターやリーフレット等で広報し、スポット展を開催した。 ・4/1～7/9 ソラール連携スポット展『宴のごちそうとギョギョ魚!クイズ』開催(575人) ・7/13～9/3 ソラール出張展示『ここにいせきがあったんだ!!～2000年前の山のくらし～』開催 ・7/21～9/3 県立博物館連携スポット展『周防国府の筆づかい、息づかい』開催(329人) ・9/16～10/22 スポット展『鳥瞰図の世界～吉田初三郎が書いた防府～』開催(138人) ・10/28～1/14 ソラール連携スポット展『昔の「はかる」』開催(251人) ・2/1～4/21 スポット展「周防国府と清少納言」開催(3月末まで283人) 令和5年度文化財郷土資料館展示観覧者数(1,613人)	536	B 到達度 3 事業効果 4 効率性 3	スポット展を2～3か月ごとに開催(計5回)し、集客に努めた。 ソラールとの連携展示を継続して行い、山口県立博物館との連携展示を行うなど、新たな手法を取り入れた。中学生以下の来館者の割合が増えた。 事前の情報発信が遅れぎみであった。計画的な、情報発信により、集客力を高めることができると考えられる。	B	引き続きソラールと連携していくとともに、情報発信の時期と手法を検討していく。	文化振興課
	61	文化財を活用した講座、体験学習の充実	文化財郷土資料館での歴史や考古学、文化財に関する講座を開催する。 市民発掘体験等	・5/3～5/8(GW) 文化財郷土資料館で、鎌倉時代衣装体験イベントを開催(88人) ・7/31 夏休み親子企画「ほうふ新発見!鎌倉時代のお宝探検」(12人) ・6/14 新田小学校でオンライン授業(6年生1クラス) ・10/17 蕪浦小学校でオンライン授業(6年生全員3クラス) ・12/11 地域散策「桑山お宝さがし」 ・令和4年度 小学校校外学習(5回) ・令和4年度 出前講座等の開催(15回)	-	B 到達度 3 事業効果 3 効率性 3	・8/5 夏休み親子イベント「火おこし体験」(8組24人) ・12/20 下田遺跡発掘体験(右田小学校6年生3クラス) ・令和5年度 インターシップ受入(4回) ・令和5年度 校外学習受入(4回) ・令和5年度 出前講座等の開催(14回)	-	B 到達度 3 事業効果 3 効率性 3	総合学習の時間を使った校外学習として、文化財郷土資料館への訪問が定着してきた。また出前講座14回のうち6回は小・中学校の総合学習の時間を充てたものであり、学校との連携の進展がみられる。 体験型の講座やイベントの開催要望が多いが対応できていない。	B	引き続き学校との連携を深め、体験的なイベント開催に努める。	文化振興課

基本目標	1 いつでもどこでも学べる環境づくり
施策	(3) 生涯学習関連施設の整備・充実
施策の展開	④ 文化施設の充実
施策の方針	地域交流センターの施設整備の充実と活用の促進を図る。 また、英雲荘の保存・適切な管理運営し、有効活用を図り、山頭火ふるさと館は、俳人種田山頭火を顕彰し、郷土の誇りとして継承するため整備を行う。 防府市公会堂・防府市文化福祉会館は、市民が文化活動や学習活動の拠点施設として、長年市民に親しまれている重要な施設だが、老朽化が進んでいるため施設の今後について、建物の建て替えを含めた将来構想を市全体のビジョンの中で検討する。

【評価】  
評価項目の合計点数をもとに記入  
A～Dで評価  
【評価項目(到達度、事業効果、効率性)】  
それぞれ1～4(点)で評価

※記入要領参照

【今後の方向性】  
A. 拡充を図る  
B. 現行のまま推進する  
C. 事業の改善が必要  
D. 計画の見直しが必要

事務事業の進捗状況

内容の連番	主な取組	事業説明	4年度末実施状況	事業費(千円)	評価(4年度)		5年度末実施状況	事業費(千円)	評価(5年度)		評価コメント 課題	今後の方向性	今後の事業への反映	担当課	
					到達度	効率性			到達度	効率性					
ア 文化施設の充実	62	公会堂、地域交流センター(アスピラート)の整備充実と活用の促進	市の文化・芸術を推進する施設として、芸術鑑賞や発表機会の提供の場として、利用促進を図るとともに、施設の適正な維持管理を行う。	地域交流センター利用者数(74,098人) 公会堂利用者数(36,939人)	150,969	B		地域交流センター利用者数(75,796人) 公会堂利用者数(46,087人)	155,413	B		防府市文化振興財団に委託することで、施設の設置目的に沿った特徴を活かした管理ができた。  耐用年数経過による設備及び備品の更新が必要である。	B	計画的な施設整備に努める。	文化振興課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
	63	萩往還三田尻御茶屋旧構内(英雲荘)の有効活用	英雲荘の文化・観光施設としての魅力を向上させるため、適切な管理運営をする。夜間特別公開等	9/10・10/7～10/10・11/3に「三度の月見イベント」と題して、昼、夜ならではの企画を行うとともに夜間一般公開を実施(3回の来館者数、計439人)。  令和4年度英雲荘入館者数(2,563人)	570	B		昨年引き続き企画した「三度の月見イベント」のうち、2回(9/29～10/1、10/27～10/29)を英雲荘で開催(11/23～11/24は毛利邸)した。昼、夜ならではの企画を行うとともに夜間一般公開を実施(英雲荘2回の来館者数、計665人)。またキャッシュレス決済を導入し、利便性の向上に努めた。樹木剪定等を積極的に行い、景観の保全に努めるとともに、花月楼の畳の修復など、必要な維持管理を行った。  令和5年度英雲荘入館者数(3,415人)	9,792	B		入館者数はコロナ前の水準に戻っている。施設整備についても、庭園の池の水の浄化や樹木の維持管理に力を入れ、景観が向上した。  イベントやインバウンド等に対応した施設整備が必要である。	B	観光振興課と連携し、イベント等を見越した施設整備に努める。	文化振興課
						到達度	3			到達度	3				
事業効果						2	事業効果			3					
64	企画展の開催等、山頭火ふるさと館の活用の促進	ふるさとの自然や歴史を背景とした山頭火の世界にふれ親しむ機会や場として、山頭火ふるさと館の活用を促進する。	山頭火ふるさと館入館者数(21,365人)	29,600	B		山頭火ふるさと館入館者数(26,708人)	29,600	B		山頭火ふるさと館を活用することで、山頭火の世界にふれ親しむ機会を提供できた。  入館者増加への取り組みが必要である。	B	入館者増加につながる企画展の開催や関係団体との連携に取り組む。	文化振興課	
					到達度	3			到達度	3					
					事業効果	3			事業効果	3					
					効率性	3			効率性	3					

基本目標	1 いつでもどこでも学べる環境づくり
施策	(3) 生涯学習関連施設の整備・充実
施策の展開	⑤ 生涯スポーツ施設の充実
施策の方針	スポーツセンター体育館(ソルトアリーナ防府)を中心として、誰もがスポーツを安全で気軽に行える環境整備を行うほか、スポーツイベントの開催や健康づくりメニューの提供など、スポーツを通じた交流の拡大や健康増進を推進する。また、地域でのスポーツ振興や世代間交流、コミュニティ活動の場として、引き継ぎ小・中学校体育施設等の地域開放を進め、身近な生涯学習の場の提供を図る。

【評価】
評価項目の合計点数をもとに記入 A～Dで評価
【評価項目(到達度、事業効果、効率性)】
それぞれ1～4(点)で評価

【今後の方向性】
A. 拡充を図る
B. 現行のまま推進する
C. 事業の改善が必要
D. 計画の見直しが必要

※記入要領参照

事務事業の進捗状況

内容の 施策	連番	主な取組	事業説明	4年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (4年度)		5年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (5年度)		評価コメント 課題	今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課		
						到達度	3			到達度	3						
ア 生涯 スポ ーツ 施設 の 充実	65	スポーツニーズに対応したイベント等の開催	ソルトアリーナ防府を中心とするスポーツ施設の適正な管理運営に努め活用の促進を図るとともに、多様化するスポーツニーズに対応したスポーツイベントや健康づくりメニュー等の提供を行い、スポーツに親しむ機会の充実を図る。 防府読売マラソン大会等	防府読売マラソン大会 市スポーツ協会や指定管理者等による各種教室、講習会、大会、スポーツイベント、及び有名選手等による教室(陸上競技等) 市スポーツ協会による合宿誘致(陸上長距離)	36,500	B		防府読売マラソン大会 市スポーツ協会や指定管理者等による各種教室、講習会、大会、スポーツイベント、及び有名選手等による教室(陸上競技等) 市スポーツ協会による合宿誘致(陸上長距離)	35,500	B		いずれの行事も盛会で開催できた。  いずれもPRを効果的にを行い、参加者を増やしていく必要がある。	B	継続して実施する。	スポーツ振興課		
						到達度	3			到達度	3						
						事業効果	3			事業効果	3						
						効率性	3			効率性	3						
	ア 生涯 スポ ーツ 施設 の 充実	66	小・中学校体育施設等の地域開放の推進	スポーツ振興や地域のコミュニティ、世代間の交流の場を提供するため、小中学校の施設を開放するとともに、幼稚園や保育園の園内開放を推進する。 体育施設の開放、園庭開放(保育園)等	小学校16校、中学校1校で体育施設の開放事業を実施	890	B		小学校16校、中学校1校で体育施設の開放事業を実施	890	B		防府市における社会体育及び社会教育の普及、振興のため、学校教育に支障のない範囲で、学校施設を市民の利用に供することができた。  学校施設開放事業を実施するにあたり、事務局として事業の運営を担う学校側の事務的負担が年々増大している。	B	今後もスポーツの振興や交流の場を提供するため、学校施設開放事業を推進していく。	教育総務課	
							到達度	3			到達度	3					
事業効果							3	事業効果			3						
園庭開放(保育園・幼保連携型認定こども園)22施設			-	-	-	-	-	B		園庭開放(保育園・幼保連携型認定こども園)22施設	-	B		地域の未就園児と保護者同士の交流が図れた。	B	園庭開放は、子育てに関する「相談」「情報提供」「交流」の場であり、継続して実施する。	子育て支援課
								到達度	3			到達度	3				
								事業効果	3			事業効果	3				

基本目標	1 いつでもどこでも学べる環境づくり
施策	(3) 生涯学習関連施設の整備・充実
施策の展開	⑥ その他の生涯学習関連施設の有効活用
施策の方針	学習機会の提供の場としてより一層の活用を図るため、さまざまな生涯学習関連施設の適正な管理運営を図る。また、地域でのコミュニティ活動の場として小・中学校施設の地域開放の推進を図る。

<b>【評価】</b>
評価項目の合計点数をもとに記入
A～Dで評価
<b>【評価項目(到達度、事業効果、効率性)】</b>
それぞれ1～4(点)で評価

<b>【今後の方向性】</b>
A. 拡充を図る
B. 現行のまま推進する
C. 事業の改善が必要
D. 計画の見直しが必要

※記入要領参照

事務事業の進捗状況

内容の 実施の 進捗	連番	主な取組	事業説明	4年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (4年度)		5年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (5年度)		評価コメント 課題	今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課	
						到達度	効率性			到達度	効率性					
ア その他の生涯学習関連施設の 有効活用と運営の充実	67	講座の開催等、施設 の特性を生かした多様な学習機会の提供	福祉センター、老人憩の家、地域協働支援センター、防府地域職業訓練センター、三田尻塩田記念産業公園、中高年齢労働者福祉センター(サンライフ防府)等の生涯学習関連施設において、それぞれの目的に応じた多様な学習機会の提供を行うとともに、活用の促進に努める。また、学習機会の提供の場としてより一層の活用を図るため、サービスの向上や施設の適正な維持管理に努める。	市民活動の支援(まちづくり講座の開催、市民活動に関する情報提供、団体運営相談、市民活動団体の活動と市民とのマッチング)	17	B		市民活動の支援(まちづくり講座の開催、市民活動に関する情報提供、団体運営相談、市民活動団体の活動と市民とのマッチング)	15	A		新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類感染症となり、計画どおり事業を実施することができた。	B	市民活動団体が活動に役立つスキルを 持てるよう支援を行う。	地域振興課	
						到達度	4			到達度	4					
						事業効果	3			事業効果	4					
	【地域協働支援センター】 市民活動の支援(まちづくり講座の開催、市民活動に関する情報提供、団体運営相談、市民活動団体の活動と市民とのマッチング)  【防府地域職業訓練センター】 各種職業訓練や講座等	68	施設の適正な維持 管理と活用の促進	防府地域職業訓練センター ・各種職業訓練及び短期パソコン講座 サンライフ防府 ・主に中高年を対象とした教養講座	防府地域職業訓練センター ・各種職業訓練及び短期パソコン講座 サンライフ防府 ・主に中高年を対象とした教養講座	-	B		防府地域職業訓練センター ・各種職業訓練及び短期パソコン講座 サンライフ防府 ・主に中高年を対象とした教養講座	-	B		民間の能力を活用するため、指定管理者制度を導入し、勤労者、求職者等の職業能力の開発及び福祉向上を促進している。  講座内容の充実と効果的なPRが求められる。	B	講座内容の充実と、効果的なPRを図る。	商工振興課
							到達度	3			到達度	3				
							事業効果	3			事業効果	3				
68	68	施設の適正な維持 管理と活用の促進	・各福祉センターで教養講座を開催(耐震改修工事の宮市福祉センターは除く)  ・各福祉センターだより(年3回)	・各福祉センターで教養講座を開催  ・各福祉センターだより(年3回)	4,071	B		・各福祉センターで教養講座を開催  ・各福祉センターだより(年3回)	4,343	B		新型コロナウイルス感染症対策をしながら、教養講座を開催した。  講師の高齢化。	B	引き続きセンターだよりで活用の促進を図り、教養講座で多様な学習機会の提供を行う。	福祉総務課 (社会福祉課)	
						到達度	3			到達度	3					
						事業効果	3			事業効果	3					
68	68	施設の適正な維持 管理と活用の促進	市内14施設の老人憩の家について、地元団体である老人憩の家運営委員会を指定管理者として、各種サークル活動や教養講座を開催した。	市内14施設の老人憩の家について、地元団体である老人憩の家運営委員会を指定管理者として、各種サークル活動や教養講座を開催した。	7,092	B		市内14施設の老人憩の家について、地元団体である老人憩の家運営委員会を指定管理者として、各種サークル活動や教養講座を開催した。	7,199	B		各地区における老人クラブや地域活動の拠点として利用されている。  地域において、管理者の後継がないことなど、今後の管理運営面に課題がある。	B	毎年実施の利用者アンケートの内容を踏まえながら、今後も各地区の高齢者に利用していただけるよう事業を推進する。	高齢福祉課	
						到達度	3			到達度	3					
						事業効果	3			事業効果	3					
						到達度	3			効率性	3					

基本目標	1 いつでもどこでも学べる環境づくり
施策	(4) 学習相談体制の充実
施策の展開	① 生涯学習に関するあらゆる相談への対応
施策の方針	高度化・多様化した学習ニーズに対応するため、生涯学習専門員による生涯学習相談コーナーの充実を図る。また、公民館、図書館、青少年科学館といった社会教育施設に専門職員を配置し、市民の学習環境の充実を図る。

【評価】
評価項目の合計点数をもとに記入 A～Dで評価
【評価項目(到達度、事業効果、効率性)】
それぞれ1～4(点)で評価

【今後の方向性】
A. 拡充を図る
B. 現行のまま推進する
C. 事業の改善が必要
D. 計画の見直しが必要

※記入要領参照

事務事業の進捗状況

内容 の 実施	連番	主な取組	事業説明	4年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (4年度)		5年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (5年度)		評価コメント 課題	今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課
						到達度	効率性			到達度	効率性				
ア 生涯 学習 相談 コー ナー の 充 実	69	生涯学習に関する資料の充実	ほうふ幸せます人材バンク「指導者バンク」をはじめとする生涯学習情報の収集・提供  生涯学習や青少年、家庭教育等に関する図書・DVD等の貸し出し(学ぼうや文庫の運用)	情報紙を発行・ホームページに掲載 まなぼら発行4回(4回) まなぼうやだより発行(3回)  図書・DVD等について、ホームページに貸出一覧を掲載	154	B		情報紙を発行・ホームページに掲載 まなぼら発行4回(4回) まなぼうやだより発行(3回)  図書・DVD等について、ホームページに貸出一覧を掲載	152	B		関係機関と定期的に情報交換を行いながら、計画どおり実施した。  電子媒体を有効活用するなど、より効率良く情報発信できる方法を検討する必要がある。	B	関係機関と連携し、より充実した内容の情報紙を目指す。	生涯学習課
	到達度	3	到達度	3											
事業効果	3	事業効果	3												
効率性	3	効率性	3												
70	生涯学習専門員の相談対応能力向上のための研修の実施	生涯学習相談コーナーに生涯学習専門員を配置することにより、市民からの相談にきめ細かく対応する。また、各種研修会へ参加し、相談対応能力の向上に努める。  ほうふ幸せます人材バンク「指導者バンク」の利用等の学習相談・講師紹介・生涯学習情報の提供	関係機関・団体との情報交換の場に積極的に参加 ほうふ幸せます人材バンク「指導者バンク」登録者をコーディネートし、講座を開催:194件 学習相談・講師紹介・生涯学習情報の提供等:821件	383	B		関係機関・団体との情報交換の場に積極的に参加 人材バンク研修会に参加  ほうふ幸せます人材バンク「指導者バンク」登録者をコーディネートし、講座を開催:225件 学習相談・講師紹介・生涯学習情報の提供等:929件	363	B		関係機関・団体との情報交換の場に積極的に参加することができた。 市民の方からの相談に適宜対応することができた。  市民からの学習相談にきめ細かく対応し、また、バンクのコーディネートを行うために、研修への参加や情報収集が必要である。	B	引き続き生涯学習専門員や職員が、学習相談に必要な研修へ参加する。また、情報交換の場に積極的に参加する。	生涯学習課	
到達度	3	到達度	3												
事業効果	3	事業効果	3												
効率性	3	効率性	3												

内容の 施策の	連番	主な取組	事業説明	4年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (4年度)		5年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (5年度)		評価コメント		今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課
						到達度	効率性			到達度	効率性	課題				
イ 社会教育施設 職員の資質向上	71	社会教育に関わる専門的職員(社会教育主事・公民館主事・社会教育指導員・司書・学芸員)の適正な配置  社会教育施設における学習相談体制の充実	専門的知識を要する施設(生涯学習課・公民館・文化財・図書館及びアスピラート・ソラール)については、専門職員の適正な配置に努める。	公民館主事(15人) 社会教育指導員(16人) 派遣社会教育主事(2人) 社会教育主事(2人) 学芸員(3人)	-	B		公民館主事(15人) 社会教育指導員(16人) 派遣社会教育主事(2人) 社会教育主事(2人) 学芸員(3人)	-	B		各施設に専門職員を配置することで、講座内容の充実や他の機関との円滑な連携に繋がっている。	B	専門職員の確保及び適正な配置に努める。	生涯学習課	
				到達度	3	事業効果	3	効率性	3							
				事業効果	3	効率性	3			専門職員の確保が困難である						
				効率性	3											
				到達度	3	事業効果	3	効率性	3							
				事業効果	3	効率性	3			指定管理業務基準書の条件を満たしている。						
	72	専門的職員への研修機会の充実	最新情報の収集やスキルアップのため、様々な研修に参加する。  公民館職員研修等 司書 館内・外部研修等 文化財保存活用地域計画等連絡協議会への参加等	西部地区公民館職員研修会に参加	-	B		日程の調整がつかず不参加となった。	-	D		職員の日程の調整がつかず不参加となった。	B	日程等が合えば、引き続き研修会に参加する。	生涯学習課	
				到達度	3	事業効果	3	効率性	3							
				事業効果	3	効率性	3			人員の余裕がないため、研修会に職員を参加させることが難しい。						
				効率性	3											
				到達度	3	事業効果	3	効率性	3							
				事業効果	3	効率性	3			経験年数の短い職員を中心に、レファレンス、図書修理、児童サービスなどの研修に積極的に参加した。						
72	専門的職員への研修機会の充実	最新情報の収集やスキルアップのため、様々な研修に参加する。  公民館職員研修等 司書 館内・外部研修等 文化財保存活用地域計画等連絡協議会への参加等	司書ほか 館内研修(11回)、外部研修参加(10回) 昨年度に引き続き、Web研修会に積極的に参加	-	B		司書ほか 館内研修(2回)、外部研修参加(25回) 昨年度に引き続き、Web研修会に積極的に参加	-	B		研修成果の短い職員を中心に、レファレンス、図書修理、児童サービスなどの研修に積極的に参加した。	B	研修成果を、館全体のサービス向上に活かす工夫をする。	教育総務課		
			到達度	3	事業効果	3	効率性	3								
			事業効果	3	効率性	3			研修成果の業務への反映と、他の職員への普及により、館全体のサービス向上に努める。							
			効率性	3												
			到達度	3	事業効果	3	効率性	3								
			事業効果	3	効率性	3			業務に活かせる専門的知識が習得できた。特に観光部門との共同研修では、文化財行政の新たな視点・知見を得ることができた。							
72	専門的職員への研修機会の充実	最新情報の収集やスキルアップのため、様々な研修に参加する。  公民館職員研修等 司書 館内・外部研修等 文化財保存活用地域計画等連絡協議会への参加等	・11/18 山口県史跡整備市町協議会主催の研修 ・2/8、2/9 文化庁主催Web研修に参加	-	B		・4/28山口県主催の市町文化財行政担当者研修会「文化財を活用した文化観光」に参加 ・7/11～14 奈良文化財研究所主催文化財担当者専門研修「木質文化財の科学的調査基礎課程」に参加 ・7/15 山口県史跡整備市町協議会主催の研修「城から読み解く歴史」に参加 ・2/9山口県市町埋蔵文化財連絡協議会主催の研修「三次元計測について」に参加	-	B		業務に活かせる専門的知識が習得できた。特に観光部門との共同研修では、文化財行政の新たな視点・知見を得ることができた。	B	文化財活用面で、文化財部門と観光部門との連携をより深めるよう努める。また木質文化財の調査・保存手法について、今後の遺跡出土木質遺物の分析調査に活用していく。オンライン研修には積極的に参加していく。	文化振興課		
			到達度	3	事業効果	3	効率性	3								
			事業効果	3	効率性	3			新たな専門知識、技術を習得し、専門職員全員に共有を図り、課として市民ニーズに応えていく必要がある。							
			効率性	3												
			到達度	3	事業効果	3	効率性	3								
			事業効果	3	効率性	3										

基本目標	1 いつでもどこでも学べる環境づくり
施策	(5) 産学公民の教育ネットワークの強化
施策の展開	① 多様な人々・機関の参加による教育ネットワークづくりの推進
施策の方針	生涯学習を推進していくため、防府市生涯学習推進協議会の機能を強化し、行政、市民、民間団体、企業、大学等との連携を図る。

【評価】
評価項目の合計点数をもとに記入 A～Dで評価
【評価項目(到達度、事業効果、効率性)】
それぞれ1～4(点)で評価

【今後の方向性】
A. 拡充を図る
B. 現行のまま推進する
C. 事業の改善が必要
D. 計画の見直しが必要

※記入要領参照

事務事業の進捗状況

施策の 内容	連番	主な取組	事業説明	4年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (4年度)		5年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (5年度)		評価コメント 課題	今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課
						到達度	効率性			到達度	効率性				
ア 会議の 生涯学習 推進	73	生涯学習関連事業の評価機能の強化	防府市生涯学習推進会議において生涯学習推進計画の進捗状況の把握と評価を行い、次年度に向けての見直しや改善を行う。	防府市生涯学習推進会議を開催 開催日：令和4年5月31日(火) 内容 ・第2次防府市生涯学習推進計画 令和3年度事業の実施状況について ・第3次防府市生涯学習推進計画について  会議での意見を踏まえ、事業実施状況調査票を変更した。 ①項目の追加(事業費) ②評価基準の明確化(到達度、事業効果、効率性の観点から定量評価)	28	B		防府市生涯学習推進会議を開催 開催日：令和5年7月6日(木) 内容 ・第3次防府市生涯学習推進計画 令和4年度事業の実施状況について ・第3次防府市生涯学習推進計画 令和5年度事業の取組について	64	B		計画どおりに会議を実施することができた。	B	継続して実施する。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
イ 市と民 連携強化 センター	74	ボランティア協働情報紙「まなぼら」の充実	ボランティア、協働について同様の取り組みをしている関係機関(市民活動支援センター、社会福祉協議会、生涯学習課)が連携して、情報紙の作成や配布を行い、より広く市民に情報発信を行う。また、定期的に情報交換を行うことで、情報紙の充実を図る。	情報紙編集のための企画・調整会議(12回) まなぼら発行4回(6月・9月・12月・3月)各月2,600部	154	B		情報紙編集のための企画・調整会議(12回) まなぼら発行4回(6月・9月・12月・3月)各月2,600部	180	B		定期的に情報交換を行いながら、紙面の充実にも努め、例年どおり実施した。	B	3機関が協働で作成し、情報交換を行うことで、共通のテーマについてお互いの特徴を出しながら、より充実した内容の情報紙を目指す。 また、紙面の編集を担当する機関や発行回数などについて協議を行い、見直しを図る。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
	75	市民活動団体相互のネットワークの構築	市民活動団体の活動の場を提供し、市民活動に関する情報の提供及び相談業務を行う。 広く市民に市民活動を啓発するとともに、市民活動団体相互のネットワーク化を図る。	「交流セミナー」の開催、「ほうふ市民活動フェスタ2022」の開催(団体交流会)、人材・団体養成講座等の開催 登録団体の活動紹介、催し物・イベント情報の提供、助成金情報の提供など(HP、市広報、市民活動支援センター情報BOX等)	490	B		「交流セミナー(団体交流会)」の開催、「ほうふ市民活動フェスタ2023」の開催、人材・団体養成講座等の開催 登録団体の活動紹介、催し物・イベント情報の提供、助成金情報の提供など(HP、市広報、市民活動支援センター情報BOX等)	895	A		・「ほうふ市民活動フェスタ2023」は、「まちかどフェスタ」「県民活動フェスタ」と、これまで以上に「協働」の取組を意識し実施した。調整が大変な部分もあったが、市民活動団体と高校生とが関わりを持つことで世代間交流につながった。 ・「交流セミナー」は、市民活動支援センター開設20周年事業として、実施した。取組の報告会を学生中心に行ったところ、参加者・来場者ともに高評価をいただいた。	A	・令和5年度に実施した「交流セミナー」の取組報告会は、20周年事業として行ったが、事業効果が非常に高く、参加者、来場者など多様な立場の人たちに良好な波及効果を生んだため、今後も学生を中心に若い世代を巻き込む形のネットワーク形成および強化に力を入れることを目的に実施する。	地域振興課
						到達度	4			到達度	4				
						事業効果	4			事業効果	4				
						効率性	4			効率性	4				

内容の 施策の	連番	主な取組	事業説明	4年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (4年度)		5年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (5年度)		評価コメント	今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課
						到達度	効率性			課題					
ウ 大学、 企業等との 連携強化	76	大学や企業等の専門性を生かした学習機会の充実	大学や企業における専門知識を有する人材を活用し、公開講座や学習講座の開催に努める。 山口大学公開講座、山口県立大学サテライトカレッジ等	山口大学公開講座(2回) 「フランス革命～近代国家の幕開け」 参加者数(延べ26人)	-	B		山口大学公開講座(2回) 「アメリカ文学をめぐって」参加者数(延べ11人)	-	B		計画どおりに事業を実施することができたが、参加人数が昨年度の半数以下となった。	B	講座内容の見直しを行い、継続して実施する。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	2				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
	77	大学や企業等との協働によるイベント開催の推進	大学や企業等との協働によるイベント開催を行い、集客アップを図る。 愛情防府フリーマーケット、「家庭の日」親子ふれあいイベント等	愛情防府フリーマーケット (新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和4年度は中止)	-	B		愛情防府フリーマーケット	500	B		4年ぶりの開催となったが、概ね計画どおり実施することができた。	B	イベントの充実及び関係団体との連携を強化し、集客アップを図る。	観光振興課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
	78	放課後子ども教室への学生の参加の促進	「放課後子ども教室」において、高校生や大学生が学習活動や体験活動等の支援にボランティアとして参加することを通して、「放課後子ども教室」の活動の充実を図る。	山口短期大学との協働により、「家庭の日」親子ふれあいイベントを防府市文化福祉会館及びルルサス文化センターで開催した。(6月、7月、10月、11月、1月、2月)	330	B		大学との協働により、「家庭の日」親子ふれあいイベントをルルサス文化センターで開催した。 【山口短期大学】6回(6月、7月、10月、11月、1月、2月) 【周南公立大学】2回(9月、12月) ※No.79に再掲	361	B		新たに周南公立大学と協働によるイベントを開催することができた。	B	参加者のアンケートや開催状況をもとに、イベントの内容や会場について大学と協議し、より魅力的なイベントとなるよう努める。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
78	放課後子ども教室への学生の参加の促進	「放課後子ども教室」において、高校生や大学生が学習活動や体験活動等の支援にボランティアとして参加することを通して、「放課後子ども教室」の活動の充実を図る。	放課後子ども教室からの要請により、3名の高校生がボランティア活動に参加した。全体としては、新型コロナウイルス感染症の影響があり、高校生・大学生のボランティアの参加ができない状況が続いていた。	-	C		放課後子ども教室から高校生ボランティアへの要請がなく、活動への参加がなかった。	-	C		県の高校生ボランティア派遣事業を周知したが、教室の開催日が平日夕方である教室が多く高校生が参加できなかった。中学生がボランティアで10名程度参加した教室があった。	C	高校生への周知方法と県が行っている高校生ボランティア派遣事業を早めに周知する。土日に開催している教室に重点的に情報提供する。また、中学生の参加があった教室の好事例を他の教室や小・中学校へ情報発信する。	生涯学習課	
					到達度	2			到達度	2					
					事業効果	2			事業効果	1					
					効率性	2			効率性	1					

内容の 施策の	連番	主な取組	事業説明	4年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (4年度)		5年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (5年度)		評価コメント	今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課
						到達度	事業効果			到達度	事業効果	課題			
ウ 大学、 企業等との 連携強化	79	共同研究事業の実施等、地域・大学・企業等がつながる仕組みづくりの支援	『学』と『公』の相互連携を通じて、様々な地域課題の解決を図り、もって地域の活性化を達成するために、双方が持つ諸財産を有効に活用できるよう連携を図る。  「家庭の日」親子ふれあいイベント、山口県立大学サテライトカレッジの開催等 山口県立大学との共同研究等	山口短期大学との協働により、「家庭の日」親子ふれあいイベントを防府市文化福祉会館及びルルサス文化センターで開催した。(6月、7月、10月、11月、1月、2月)	330	B		大学との協働により、「家庭の日」親子ふれあいイベントをルルサス文化センターで開催した。 【山口短期大学】6回(6月、7月、10月、11月、1月、2月) 【周南公立大学】2回(9月、12月)  ※No.77の再掲	361	B		新たに周南公立大学と協働によるイベントを開催することができた。  参加者の増加や年齢差に応じた内容、及び会場の工夫が必要である。	B	参加者のアンケートや開催状況をもとに、イベントの内容や会場について大学と協議し、より魅力的なイベントとなるよう努める。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
						B				B					
						到達度				3					
	事業効果		3												
	効率性		3												
	79	山口県立大学サテライトカレッジを防府商工高等学校及び塩田記念産業公園で開催 参加者数(延べ27人)	山口県立大学サテライトカレッジを防府商工高等学校及び右田福祉センターで開催 参加者数(延べ18人)  ※No.76の再掲	山口県立大学サテライトカレッジを防府商工高等学校及び右田福祉センターで開催 参加者数(延べ18人)  ※No.76の再掲	71	B		山口県立大学サテライトカレッジを防府商工高等学校及び右田福祉センターで開催 参加者数(延べ18人)  ※No.76の再掲	106	B		山口県立大学と地域をつなぐ講座となり、景観という観点において地元への活性化にも寄与している。  山口県立大学サテライトカレッジの成果の検証を行うとともに、地域課題解決へ向けた産学官民連携の仕組みづくりが求められる。	B	山口県立大学サテライトカレッジを継続して開催する。	都市計画課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
B						B									
到達度						3									
事業効果		3													
効率性		3													
80	企業等に関する出前講座や『ほうふ幸せます人材バンク「指導者バンク」』のメニューの充実及び活用の促進	多様な分野の学習メニューとして、民間事業者や民間企業との連携による講座を企画・実施する。	『指導者バンク』企業登録数 9件 講座実施数: 11件(セミナーを含む)	-	C		『指導者バンク』企業登録数 9件 講座実施数: 10件	-	C		新型コロナウイルス感染症の影響等により、取り組みが難しい状況であった。  共同研究による課題解決が促進されるよう、改めて大学と市のニーズを整理し直す必要がある。	B	大学と市の双方がもつ諸財産が有効に活用できるよう、引き続き連携した取り組みを行っていく。	政策推進課	
					到達度	2			到達度	2					
					事業効果	2			事業効果	2					
					効率性	2			効率性	2					
					C				C						
					到達度				2						
事業効果		2													
効率性		2													
81	防府地域職業訓練センター等における各種職業訓練や講座の実施	防府地域職業訓練センターと連携し、各種職業訓練や講座を実施する。	防府地域職業訓練センターパソコン講座 〔種目〕 ワード、エクセル、パワーポイント、インターネット、アクセス、ホームページ、広告・チラシ・POP作成等	-	B		防府地域職業訓練センターパソコン講座 〔種目〕 ワード、エクセル、パワーポイント、インターネット、アクセス、ホームページ、広告・チラシ・POP作成等  ※No.22の再掲	-	B		民間の能力を活用するため、平成26年度から防府地域職業訓練センターにおいて指定管理者制度を導入し、勤労者、求職者等の職業能力の開発及び向上を促進している。  講座内容の充実と効果的なPRが求められる。	B	講座内容の充実と、効果的なPRを図る。	商工振興課	
					到達度	3			到達度	3					
					事業効果	3			事業効果	3					
					効率性	4			効率性	4					
					B				B						
					到達度				3						
事業効果		3													
効率性		4													

基本目標	2 ひとりひとりがきらめく人づくり
施策	(1) 生涯学習を支える人材の育成
施策の展開	① 生涯学習を支える人材育成の推進
施策の方針	教育・福祉・スポーツ・環境など各分野の知識や技術を習得するための研修を継続して開催し、ボランティアの育成機会の充実を図る。 また、生涯学習指導者の指導力を高める研修の場を継続して提供し、育成機会の充実を図るとともに、情報交換や交流の場の設定により、人材育成に努める。

【評価】
評価項目の合計点数をもとに記入
A～Dで評価
【評価項目(到達度、事業効果、効率性)】
それぞれ1～4(点)で評価
※記入要領参照

【今後の方向性】
A. 拡充を図る
B. 現行のまま推進する
C. 事業の改善が必要
D. 計画の見直しが必要

事務事業の進捗状況

施策内容	連番	主な取組	事業説明	4年度末実施状況	事業費(千円)	評価(4年度)			5年度末実施状況	事業費(千円)	評価(5年度)			評価コメント	今後の方向性	今後の事業への反映	担当課
						到達度	事業効果	効率性			到達度	事業効果	効率性				
ア ボ ラ ン テ ィ ア 育 成 機 会 の 充 実	82	生涯学習ボランティア養成講座の充実	子どもに関わるボランティアの養成を目的に、毎年開催している生涯学習ボランティア養成講座の内容の充実を図る。	放課後子ども教室等、子どもに関わるボランティア活動の場で活用できることを目的として、ニュースポーツや科学実験を内容とした講座を実施。(参加者31人)	9	B			放課後子ども教室等、子どもに関わるボランティア活動の場で活用できることを目的として、バレーアートやニュースポーツを内容とした講座を実施。(2回、延べ参加者28人)	9	B			参加者のニーズに沿った講座を実施することができ、好評であった。  より多くの方に参加してもらうため、周知の仕方、時期や内容について検討が必要。	B	指導者バンクの活用、他課との連携等、実施内容の充実を図るとともに、ホームページや市広報などを通じて積極的に情報発信を行う。	生涯学習課
						到達度	3				到達度	3					
						事業効果	4				事業効果	3					
						効率性	3				効率性	3					
	83	防府読売マラソン大会等でのボランティア体験機会の提供等、スポーツボランティアに関する情報の提供(No.43の再掲)	誰もが、いつでも、どこでも、いつまでも気軽にスポーツに取り組み、実践できる生涯スポーツ社会の実現を目指し、スポーツボランティアの育成に努める。	ボランティア活動に関する情報提供やスポーツボランティアリーダー養成講習会等への参加啓発を行った。	-	B			地域や企業によるボランティアを募集し、人材を確保した。  No.43の再掲	-	B			JMCシリーズ男子グレード1、女子グレード3となり、大会運営にも多数の人員が必要となったことで、多数のボランティアの参加があった。  大会HP等での告知、周知を行い、掘り起こしを行う必要がある。	B	継続して実施する。	スポーツ振興課
						到達度	2				到達度	3					
						事業効果	3				事業効果	3					
						効率性	3				効率性	3					
	84	森林ボランティア等の環境ボランティア活動の促進	水源となる佐波川上流の森林整備が持続的に進められ、健全な状態に保たれるように森林ボランティア活動による森林整備及び環境保全への意識向上を図る。	佐波川流域森林整備事業(3回) 森林整備事業・林業体験学習 ※コロナウイルスの影響により一般ボランティア参加なし	300	B			佐波川流域森林整備事業(2回) 森林整備事業・林業体験学習 ※R2年度よりコロナウイルスの影響を受け、今年度も一般ボランティアの参加なし。6月・11月・3月の3回実施予定であったが、11月は中止となったため2回の実施となった。	300	B			R2年度よりコロナウイルスの影響を受け、今年度も一般参加の受け入れができていない状況である。一般ボランティアの受け入れ再開について、関係各所と協議をすすめていく必要がある。  情報発信等を引き続き行っていく必要がある。	B	市内ボランティアや山口県、森林組合の協力を得て、内容の見直しや充実を図り、引き続き森林ボランティア活動への参加を呼びかけていく。	農林漁港整備課
						到達度	3				到達度	3					
						事業効果	3				事業効果	3					
						効率性	3				効率性	3					
85	手話や点訳奉仕員、要約筆者等、障害のある人の社会参加を支援するボランティアの育成	障害者の日常を支援するための意思疎通支援者(手話、要約筆記、点訳奉仕員、音声訳ボランティア)を養成するとともに、障害者施設でのボランティア体験やボランティアの集いを開催し、ボランティアの育成に努める。	手話奉仕員養成講座(20人) 要約筆者養成講座(2人) 点訳奉仕員養成講座(4人)	1,380	B			手話奉仕員養成講座(25人修了) 点訳奉仕員養成講座(3人修了) ※要約筆者養成講座は隔年開催のため、R5は実施なし	950	B			市広報等に各講座の募集記事を掲載しPRを行い、予定どおり講座を開催することができた。  受講者増加に向けた取組が必要である。	B	養成講座の受講者が増加するよう、市広報等を通じてPR活動に努める。	障害福祉課	
					到達度	3				到達度	3						
					事業効果	3				事業効果	3						
					効率性	3				効率性	3						

施策内容	連番	主な取組	事業説明	4年度末実施状況	事業費(千円)	評価(4年度)		5年度末実施状況	事業費(千円)	評価(5年度)		評価コメント		今後の方向性	今後の事業への反映	担当課
						到達度	効率性			到達度	効率性	課題				
イ 生涯学習指導者の育成機会の充実	86	『ほうふ幸せます人材バンク「指導者バンク」』登録者の研修の充実	指導力を高める研修の場の設定、講師、指導者、生涯学習ボランティア等の多様な人材間の情報交換・交流の場の設定などのため、研修会を開催する。	人材バンク研修会を開催。活動目的の整理を行うとともに今後どうしていきたいかということを考える機会を設けた。 ・人材バンク研修会 開催日 令和5年2月1日(水) 内容 活動紹介、講演、情報交換等 参加者数 28人(うち指導者バンク25人)	7	B		人材バンク研修会を開催。子どもとの関わり方についての講話や、登録者同士の交流の機会を設けた。 ・人材バンク研修会 開催日 令和6年1月26日(金) 内容 活動紹介、講話、情報交換等 参加者数 23人(うち指導者バンク20人)	-	B	到達度 3 事業効果 3 効率性 3	概ね計画どおりに実施することができた。参加者からも、時代に合った内容だったと好評であった。  アンケートの結果をもとに、内容や開催時間の調整が必要である。	B	内容や開催時間について、アンケート結果をもとに調整を行い、継続して実施する。	生涯学習課	
	87	スポーツ推進委員等の指導者の研修の充実	スポーツ推進委員連絡協議会の開催を通じ、各委員の連携を密にするとともに、各種研修会や講習会へ参加することで資質の向上を図る。 市民体力テスト・ニューススポーツ体験会等の運営	防府市スポーツ推進委員連絡協議会の開催(計8回) 市民ニューススポーツ大会(モルック大会)の運営(計1回) 県・県央スポーツ推進委員連絡協議会への参加(計3回) 研修会への参加(計4回) 放課後子ども教室等の実施(計4回)	245	B		防府市スポーツ推進委員連絡協議会の開催(計8回) 市民モルック大会の運営(計2回) 県・県央スポーツ推進委員連絡協議会への参加(計3回) 研修会への参加(計3回) 放課後子ども教室等の実施(計7回) リーダー養成講習会への参加(1人)	178	B	到達度 3 事業効果 3 効率性 3	モルックについては、市民に浸透してきており、盛況のうちに開催することができた。スポーツ推進委員の研鑽も積むことができた。  研修会の出席率の向上 スポーツ推進委員の地区による活動の差異は今年度も見られた。	B	外部講師を活用した講習会の実施、放課後子ども教室の積極的な参加を促し、委員各個人の資質の向上を期待する。 協議会をはじめとする、委員が集まる場では意見交換を活発化し、他地域を参考にするなどの相乗効果を生み出したい。	スポーツ振興課	
	88	県主催の「地域協育ネット」コーディネーター養成講座の積極的な活用	学校や支援組織・団体との連絡調整を担い、キーパーソンとして果たす役割が重要なコーディネーターを育成するため、県が主催するコーディネーター養成講座を活用する。	県主催「地域協育ネット」コーディネーター養成講座(2人) 県主催「地域協育ネット」コーディネーターステップアップ講座(2人)	173	B		県主催「地域協育ネット」コーディネーター養成講座修了者(4人)	172	B	到達度 3 事業効果 3 効率性 2	受講者、修了者とも前年度から増えた。また、修了者のうち3名が放課後子ども教室を運営した。また、家庭教育支援チームを立ち上げ、子育て学習会でファシリテーターを行った。  県の養成講座受講者を増やすこと、修了者の活躍の場を増やすことが必要である。	B	県の養成講座の周知を市子ども会連合会と防府市PTA連合会の総会で周知するとともに、研修会や交流会などで実働している方々に周知する機会を設ける。また、活躍している修了者の活動を調べ、それを周知する。	生涯学習課	

基本目標	2 ひとりひとりがきらめく人づくり
施策	(2) 学習成果を生かす機会の充実
施策の展開	① 学習成果を活用する機会の充実
施策の方針	防府市市民活動支援センター、防府市社会福祉協議会と連携し、ボランティアのネットワーク化や、コーディネート機能の充実などにより、ボランティア活動の支援に努めるとともに、ボランティアが活躍できる場づくりを進める。 また、『ほうふ幸せます人材バンク「指導者バンク」、「支援者バンク」』の新たな人材の掘り起こしを進め、登録者の分野及び人数の拡充を図ることで整備を進めるとともに、『ほうふ幸せます人材バンク「指導者バンク」』登録者による公開講座の開催により、市民への周知と積極的な活用を図る。

【評価】  
評価項目の合計点数をもとに記入  
A～Dで評価  
【評価項目(到達度、事業効果、効率性)】  
それぞれ1～4(点)で評価  
※記入要領参照

【今後の方向性】  
A. 拡充を図る  
B. 現行のまま推進する  
C. 事業の改善が必要  
D. 計画の見直しが必要

事務事業の進捗状況

施策内容	連番	主な取組	事業説明	4年度末実施状況	事業費(千円)	評価(4年度)		5年度末実施状況	事業費(千円)	評価(5年度)		評価コメント 課題	今後の方向性	今後の事業への反映	担当課
						到達度	効率性			到達度	効率性				
ア 各種ボランティア活動の支援	89	市社会福祉協議会との連携によるボランティア活動の支援	市広報や情報誌の発行を通じてボランティア参加者の募集を行うとともに、社会福祉協議会、市民活動支援センターと協力しながら情報誌「まなぼら」を発行し支援を行う。 地域振興課・生涯学習課・社会福祉協議会・市民活動支援センターなどでボランティアに関する協議をする。	情報紙「まなぼら」発行(4回)	154	B		情報紙「まなぼら」発行(4回) ※No.90に再掲	180	B		定期的に情報交換を行いながら、紙面の充実に努め、例年どおり実施した。  各機関の情報やデジタルスキルの共有などにより連携を強めていく必要がある。	B	3機関が協働で作成し、情報交換を行うことで、共通のテーマについてお互いの特徴を出しながら、より充実した内容の情報紙を目指す。	生涯学習課
				到達度		3	到達度			3					
	事業効果	3	事業効果	3											
	効率性	3	効率性	3											
			情報紙「まなぼら」発行(4回) 市民活動ボランティアマッチングの運用	-	B		情報紙「まなぼら」発行(4回) 市民活動ボランティアマッチングの運用	-	B		情報紙を3者で協働発行することで、市民や市民活動団体に多様な情報発信をすることができている。  市民活動ボランティアマッチングの認知度を高め、活用を進めるためには、防府市社会福祉協議会との一層の連携強化が必要である。	B	3者の協働による発行の強みを生かした情報発信に努める。 市民活動ボランティアマッチングの活用に向けた連携強化に努める。	地域振興課	
			到達度	3	到達度	3	事業効果	3	事業効果	3	効率性	4			
90	市民活動支援センターとの連携によるボランティア活動の支援	市広報や情報誌の発行を通じてボランティア参加者の募集を行うとともに、社会福祉協議会、市民活動支援センターと協力しながら情報誌「まなぼら」を発行し支援を行う。 地域振興課・生涯学習課・社会福祉協議会・市民活動支援センターなどでボランティアに関する協議をする。	情報紙「まなぼら」発行(4回)	154	B		情報紙「まなぼら」発行(4回) ※No.89の再掲	180	B		定期的に情報交換を行いながら、紙面の充実に努め、例年どおり実施した。  各機関の情報やデジタルスキルの共有などにより連携を強めていく必要がある。	B	3機関が協働で作成し、情報交換を行うことで、共通のテーマについてお互いの特徴を出しながら、より充実した内容の情報紙を目指す。	生涯学習課	
			到達度		3	到達度			3						
	事業効果	3	事業効果		3										
	効率性	3	効率性		3										
			情報紙「まなぼら」発行(4回) 市民活動ボランティアマッチングの運用	206	B		情報紙「まなぼら」発行(4回) 市民活動ボランティアマッチングの運用	258	B		情報紙を3者で協働発行することで、市民や市民活動団体に多様な情報発信をすることができている。  市民活動ボランティアマッチングの認知度を高め、活用を進めるためには、防府市社会福祉協議会との一層の連携強化が必要である。	B	3者の協働による発行の強みを生かした情報発信に努める。 市民活動ボランティアマッチングの活用に向けた連携強化に努める。	地域振興課	
			到達度	3	到達度	3	事業効果	3	事業効果	3	効率性	4			
91	市の行事等におけるボランティア活動の機会の提供	市の行事において、積極的な情報提供を行い、参加を促す。 防府読売マラソン等 成人式、放課後子ども教室等	関係者(学生や企業)を対象として防府読売マラソンボランティアの募集を行った。	-	B		関係者(学生や企業)を対象として防府読売マラソンボランティアの募集を行った。	-	B		募集の結果多くの方々に参加していただいた。  より多くの方々に参加してもらえるようなPRの実施	B	大会を万全に開催するため、ボランティアの参加が不可欠であるため、多くのボランティアが参加してもらえるよう、PRの周知を図っていく。	スポーツ振興課	
			到達度		2	到達度			3						
	事業効果	3	事業効果		3										
	効率性	3	効率性		3										
			放課後子ども教室でのサポーターとしての活動(無償ボランティアの登録人数:273人)	-	B		放課後子ども教室でのサポーターとしての活動(無償ボランティアの登録人数:248人)	-	B		地域学校協働活動推進員、放課後子ども教室コーディネーターが中心となり活動の周知を行った。  無償ボランティアの新規登録者が少なく、登録者数が減少している。また、登録者の中で、活動へ参加する人数も減ってきている。	B	より多くの方がボランティアとして関わることのできるように情報提供や支援の仕方や周知する場を検討する。	生涯学習課	
			到達度	3	到達度	3	事業効果	3	事業効果	3	効率性	3			

施策内容	連番	主な取組	事業説明	4年度末実施状況	事業費(千円)	評価(4年度)		5年度末実施状況	事業費(千円)	評価(5年度)		評価コメント		今後の方向性	今後の事業への反映	担当課
						到達度	効率性			到達度	効率性	課題				
ア 各種ボランティア活動の支援	92	三世交代流事業等、高齢者がいきいきと活動できるボランティアの場の提供	各地区において三世交代流事業として、さまざまな催しや教室を開催する。また、指導者バンクへの登録を呼びかけ、地域を越えた活動の場を提供する。	各地区において、体験学習やスポーツ交流等を実施(実施地区数13箇所)計74回、参加者(延べ6,568人)	400	B		各地区において、体験学習やスポーツ交流等を実施(実施地区数15箇所)計123回、参加者(延べ5,278人)	400	B		体験学習やスポーツ交流等を通して、三世交代間の交流を図ることができた。		B	高齢者の生きがいづくりのため今後も継続していく必要がある。	高齢福祉課
						到達度	3			到達度	3	より多くの人が参加しやすい企画等が必要である。				
						事業効果	3			事業効果	3					
						効率性	3			効率性	3					
イ ほうふ幸せます人材バンクの整備・活用	93	『ほうふ幸せます人材バンク』の周知及び登録者による公開講座(学ぼうやセミナー)の開催	生涯学習に関する豊富な知識や経験、技能を持つ個人や団体を指導者バンクに登録し、自発的な学習や活動の場へ指導者として派遣することで、市民の生涯学習活動を推進するとともに制度の周知を図る。また、登録者による公開講座を開催し、市民の自主的な学習を支援する。	実施件数(194件) 登録状況:団体(50)、個人(101)、企業(9) ・学ぼうやセミナー 【夏季】令和4年7月30日(土)開催 18講座、参加者(延べ308人) 【春季】令和5年2月26日(日)開催 17講座、参加者(延べ312人) ・わくわく学び塾 4講座、参加者(延べ48人)	154	B		実施件数(225件) 登録状況:団体(52)、個人(102)、企業(9) ・学ぼうやセミナー 【夏季】令和5年7月30日(日)開催 18講座、参加者(延べ465人) 【春季】令和6年3月3日(日)開催 21講座、参加者(延べ457人) ・わくわく学び塾 4講座、参加者(延べ59人)	127	B		学ぼうやセミナーなど、概ね計画どおりに事業を実施することができた。利用申し込みは増加傾向にあり、活動について一定の効果があると思われる。		B	情報収集を行い、新たな指導者の登録を呼びかける。開催時期の調整や企画内容を検討しながら、引き続き指導者バンク登録者の自主的な企画・運営による「学ぼうやセミナー」や「わくわく学び塾」などの講座を開催する。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3					
						事業効果	3			事業効果	3	人材が固定化してきているため新規登録者の確保が必要である。また、学ぼうやセミナー等の講座については、更なる周知が必要である。				
						効率性	3			効率性	3					
イ ほうふ幸せます人材バンクの整備・活用	94	『指導者バンク』と『支援者バンク』の一体的な運用の促進(No.105に再掲)	利用者のニーズに応じて指導者バンクと支援者バンクを使い分けることで人材バンクの効果的な活用を努めた。研修会を開催し、活動目的の整理を行うとともに今後どうしていきたいかということを考える機会を設けた。 ・人材バンク研修会 開催日 令和5年2月1日(水) 内容 活動紹介、講演、情報交換等 参加者数 28人	7	B		利用者のニーズに応じて指導者バンクと支援者バンクを使い分けることで人材バンクの効果的な活用を努めた。研修会を開催し、活動目的の整理を行うとともに今後どうしていきたいかということを考える機会を設けた。 ・人材バンク研修会 開催日 令和6年1月26日(金) 内容 活動紹介、講演、情報交換等 参加者数 23人	-	B		概ね計画どおりに事業を実施できた。		B	継続して実施する。	生涯学習課	
					到達度	3			到達度	3						
					事業効果	3			事業効果	3	人材が固定化している。					
					効率性	3			効率性	3						

基本目標	2 ひとりひとりがきらめく人づくり
施策	(2) 学習成果を生かす機会の充実
施策の展開	② 学習成果を発表する機会の充実
施策の方針	学習した成果を発表することは、社会への還元となるとともに、学習者にとっても喜びとなり、更なる学習意欲へとつながる。作品展、発表会の開催や、活動のPR展示を行い、日頃の学習成果の発表の場を提供する。

【評価】
評価項目の合計点数をもとに記入
A～Dで評価
【評価項目(到達度、事業効果、効率性)】
それぞれ1～4(点)で評価

※記入要領参照

【今後の方向性】
A. 拡充を図る
B. 現行のまま推進する
C. 事業の改善が必要
D. 計画の見直しが必要

事務事業の進捗状況

内容の 施策	連番	主な取組	事業説明	4年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (4年度)			5年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (5年度)			評価コメント 課題	今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課
						到達度	事業効果	効率性			到達度	事業効果	効率性				
ア 学習成果発表の機会づくり	95	生涯学習フェスティバル等、発表の場の提供	市民の日頃の学習成果の発表や、公開講座や体験コーナーを設け、様々な学習に触れることにより、市民一人ひとりの学習意欲を促進するとともに、様々な学習に触れる機会を創出し、自主的・主体的な学習を地域づくり、まちづくりに繋げていくことが重要であることを市民に啓発するために、生涯学習フェスティバルを開催する。	・生涯学習フェスティバル 開催日：令和5年2月26日(日) 来場者数：延べ2,428人 内容：28の個人・団体による自主講座・発表会・活動PR(展示)、文化センター市民教養講座作品展等	618	B			・生涯学習フェスティバル 開催日：令和6年3月3日(日) 来場者数：延べ2,534人 内容：31の個人・団体による自主講座・発表会・活動PR(展示)、文化センター市民教養講座作品展等	618	B			概ね計画どおりに事業を実施できた。新たに児童養護施設や幼稚園、老人ホームにも参加を呼びかけた。  より多くの個人・団体が参加しやすいよう呼びかけが必要である。	B	継続して推進する。	生涯学習課
						到達度	3				到達度	3					
						事業効果	3				事業効果	3					
						効率性	3				効率性	3					
	96	地区文化祭や子ども読書フェスティバルでの作品発表等、公民館・図書館での発表の場の提供	学習意欲の向上や学習活動の奨励を図ることを目的に、地区文化祭、公民館まつり、サークル作品展等を開催し 学習成果の発表の場を提供する。また、読書活動の推進を図るため、図書館ボランティアグループ等と協働して、子ども読書フェスティバル・防府図書館まつりを開催する。	地区文化祭又は作品展での作品発表(11館) ※新型コロナ感染症防止対策のため、地区文化祭及び作品展の開催を中止した館がある。  防府市子ども読書フェスティバル(6月5日) (参加18団体/参加者 延べ165人)  図書館まつり開催(10月15日) (参加17団体/参加者 延べ約1,239人)	-	B			地区文化祭又は作品展での作品発表当(15館)  防府市子ども読書フェスティバル(5月28日) (参加17団体/参加者 延べ107人)  図書館まつり開催(10月29日) (参加17団体/参加者 延べ約1,177人)	-	B			新型コロナウイルス感染症の収束により、全ての公民館で実施することができた。  サークル・ボランティア団体と協働し、防府市子ども読書フェスティバル、図書館まつりを実施し、概ね好評であった。  防府市子ども読書フェスティバル、図書館まつりともに、サークル・ボランティア団体との協働が必須のため、サークル・ボランティア団体数を増やすこと、また、高齢化が進む団体への新規入会者を増やす方策を検討する。	B	地区文化祭や作品展は、学習意欲の向上に寄与しているため、今後も継続して行っていく。	生涯学習課
						到達度	3				到達度	3					
						事業効果	3				事業効果	3					
						効率性	3				効率性	3					
	97	市民文化祭等での各団体の発表の場の拡充	防府市文化協会に加入する各文化団体の「部門別文化祭」を開催する。また、市広報(各月1日号)に市民文芸コーナーを設け、文化活動に関心を持つ多くの市民に文化情報を提供し合い、防府市の文化振興を図る。  アスピラートでの市民ギャラリーの新設等	・市広報掲載(月1回) ・市民大会(1回)川柳、俳句、短歌、自由律俳句 ・第53回防府市市民文化祭(10月から3月)参加者(4,042人) (音楽祭、美術展他) ・市民ギャラリーの運営	7,000	B			・市広報掲載(月1回) ・市民大会(1回)川柳、俳句、短歌、自由律俳句 ・第54回防府市市民文化祭(9月から12月)参加者(4,668人) (音楽祭、美術展他) ・市民ギャラリーの運営	7,700	B			市民文芸コーナー、市民文化祭の開催、市民ギャラリーでのイベントを通して、文化活動発表の場を提供できた。  工夫した開催を心掛け、文化に触れる機会の提供を継続する必要がある。	B	多様な文化活動の発表の場を提供し、魅力ある市民文化祭を目指す。	文化振興課
						到達度	3				到達度	3					
						事業効果	3				事業効果	3					
						効率性	3				効率性	3					
98	障害者ふれあい芸術展の開催等、障害のある人が学習成果を発表する場の提供	障害者ふれあい芸術展を開催し、障害者の創作活動の発表の場を確保する。主催する防府市障害者福祉団体連合会に対して、開催の支援を行う。	防府市障害者ふれあい芸術展 ・令和5年2月11日～12日開催 応募総数 156点	-	B			防府市障害者ふれあい芸術展 ・令和6年2月3日～4日開催 応募総数 137点  ※No.36の再掲	-	B			報道機関等に芸術展の開催を案内し、PRを行った。  参加者や団体が固定化する傾向があり、新規参加者への呼びかけを積極的に行う必要がある。	B	市広報等に開催記事を掲載し、作品の募集及び来場について周知を行う。	障害福祉課	
					到達度	3				到達度	3						
					事業効果	3				事業効果	3						
					効率性	3				効率性	3						

基本目標	2 ひとりひとりがきらめく人づくり
施策	(3) 主体的な市民活動への支援
施策の展開	① 市民活動団体への活動支援
施策の方針	市民活動団体の活動を支援し、活性化を図る。特に、社会教育関係団体については、社会教育に関する公益的な活動を行い、生涯学習の推進に主体的に取り組む団体として、団体の自主性を尊重しながら、運営や活動の支援を行う。 また、公民館などでの講座修了者に対して、その学習成果を社会へ還元する意識の高揚を図り、市民活動団体として自立した活動ができるよう支援する。

【評価】
評価項目の合計点数をもとに記入
A～Dで評価
【評価項目(到達度、事業効果、効率性)】
それぞれ1～4(点)で評価
※記入要領参照

【今後の方向性】
A. 拡充を図る
B. 現行のまま推進する
C. 事業の改善が必要
D. 計画の見直しが必要

事務事業の進捗状況

内容	連番	主な取組	事業説明	4年度末実施状況	事業費(千円)	評価(4年度)		5年度末実施状況	事業費(千円)	評価(5年度)		評価コメント 課題	今後の方向性	今後の事業への反映	担当課
						到達度	効率性			到達度	効率性				
ア 社会教育関係団体の運営の支援及び学習サークル等の育成	99	社会教育関係団体の継続的な活動への支援	社会教育関係団体の活動に対して支援する。 補助金の交付、キャンプ用品等の物品の貸出し	社会教育関係団体への補助金の交付	3,228	B		社会教育関係団体への補助金の交付、キャンプ用品等の物品の貸出し	3,228	B		計画どおりに実施できた。	B	継続して推進する。	生涯学習課
						到達度	2			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
		社会教育関係団体への補助金の交付	12,846	B		社会教育関係団体への補助金の交付	11,094	B		計画どおりに補助金の交付をすることができた。	B	団体の自主性は尊重しながら、支援できる部分は積極的に支援する。	スポーツ振興課		
				到達度	3			到達度	3						
				事業効果	3			事業効果	3						
				効率性	3			効率性	3						
	100	市民活動支援センターを中心とした市民活動団体への支援	指定管理者(特定非営利活動法人、市民活動さぼーとねっと)により、様々な支援を行う。	市民活動への相談人材の発掘・養成、団体の登録情報の収集・発信 市民活動団体のネットワークづくり 施設の利用 関係機関・団体との協働体制作り 登録206団体	1,434	B		市民活動への相談人材の発掘・養成、団体の登録情報の収集・発信 市民活動団体のネットワークづくり 施設の利用 関係機関・団体との協働体制作り 登録201団体	1,513	B		新型コロナウイルス感染症の影響やメンバー高齢化による活動縮小や停止の団体もあるが、地道に活動を継続している団体もあり、継続した支援を行っている。	B	市民活動への入り口として市民活動ボランティアマッチング制度を平成31年2月から運用開始した。この制度の活用と定着を通じて市民活動団体の基盤強化を図る。また、地域の団体や学校とのつながりづくり等にも目を向けた支援を行っていく。団体支援を個別支援・個別相談にするなど、ニーズに合わせた支援とする。	地域振興課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	4			効率性	4				
101	社会教育関係団体・学習サークル相互の交流を図る機会の提供	様々な社会教育団体や学習サークルへ情報交換や交流の場(生涯学習フェスティバル)を提供し、広く参加を呼びかける。	生涯学習フェスティバルを開催し、子ども会育成連絡協議会等の28の個人・団体が自主講座や発表会、活動PRを実施するとともに相互に交流した。	618	B		生涯学習フェスティバルを開催し、子ども会育成連絡協議会等の31の個人・団体が自主講座や発表会、活動PRを実施するとともに相互に交流した。	618	B		概ね計画どおりに事業を実施できた。	B	継続して推進する。	生涯学習課	
					到達度	3			到達度	3					
					事業効果	3			事業効果	3					
					効率性	3			効率性	3					

基本目標	3 学びを通じてつながる地域づくり
施策	(1) 地域活動の拠点づくり
施策の展開	① 公民館・学校を中心とした拠点づくり
施策の方針	地域の教育力向上を図るための中核となる施設として、共通する地域課題の解決に向けて取り組む拠点となるよう、公民館での活動を継続して支援する。 学校が、保護者や地域住民の力を活用した活動の拠点となるよう、学校支援活動を推進する。

【評価】
評価項目の合計点数をもとに記入
A～Dで評価
【評価項目(到達度、事業効果、効率性)】
それぞれ1～4(点)で評価

【今後の方向性】
A. 拡充を図る
B. 現行のまま推進する
C. 事業の改善が必要
D. 計画の見直しが必要

※記入要領参照

事務事業の進捗状況

内容 の 実施 の	連番	主な取組	事業説明	4年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (4年度)		5年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (5年度)		評価コメント	今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課
						到達度	事業効果			到達度	事業効果	課題			
ア 地 域 コ ミュ ニ ティ 活 動 の 支 援	102	公民館を中心とした地域コミュニティ活動への支援	地域コミュニティ活動の中心的な役割を果たしている自治会に対して支援することにより、地域コミュニティ活動を更に活性化していく。また、施設備品の充実に努める。	自治会に対して事務委託費、振興助成金を交付 地区集会施設新設1件、改修7件の助成 佐波、富海地域の各種活動用備品の整備(宝くじ助成事業)	98,899	B		自治会に対して事務委託費、振興助成金を交付 地区集会施設改修10件の助成 小野、大道地域の各種活動用備品の整備(宝くじ助成事業)	80,098	B		地域コミュニティ活動の活性化につながる自治会館、施設備品の充実に努めることができた。  地域からの要望に沿いながら、新設、改造等に対する支援の継続が必要である。	B	継続して実施する。	地域振興課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	4			効率性	4				
ア 地 域 コ ミュ ニ ティ 活 動 の 支 援	103	公民館の運営方法についての調査・研究の推進	公民館は地域課題を解決する拠点として活用するため、今後「地域コミュニティ活動」のあり方を含めて、調査・研究する。 各地区公民館運営審議会の開催等	各地区公民館運営審議会の開催	1,170	B		各地区公民館で運営審議会を開催した。	1,106	B		各公民館で運営審議会を開催した。  各公民館で運営審議会を開催し公民館の運営について審議を行っているが、地域課題解決の場として、どのように地域コミュニティ活動とかがかわっていくか検討が必要である。	B	継続して実施する。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				

施策の内容	連番	主な取組	事業説明	4年度末実施状況	事業費(千円)	評価(4年度)		5年度末実施状況	事業費(千円)	評価(5年度)		評価コメント	今後の方向性	今後の事業への反映	担当課
						到達度	事業効果			到達度	事業効果				
イ 公民館・学校の連携による学校支援活動の推進	104	コミュニティ・スクールの推進等、地域ぐるみで学校を支える取組の推進(No.117に再掲)	学校を支援する活動として、コミュニティ・スクール等を推進する。 「防府まるごと学校のついで」(兼 全地域協育ネット協議会、兼 地域連携担当者研修会)の開催(6月、2月) 第1回は集合、第2回はオンラインと集合のハイブリットで実施した。 地域連携教育プロジェクト会議(月2回程度)の実施 地域連携教育アドバイザー、サブアドバイザー、指導主事、社会教育主事等による学校運営協議会への参加及び助言、支援	「防府まるごと学校のついで」(兼 地域協育ネット協議会、兼 地域連携担当者研修会)の開催(6月、2月) 第1回は集合、第2回はオンラインと集合のハイブリットで実施した。 地域連携教育プロジェクト会議(月2回程度)の実施 地域連携教育アドバイザー、サブアドバイザー、指導主事、社会教育主事等による学校運営協議会への参加及び助言、支援	463	B		「防府まるごと学校のついで」(兼 地域協育ネット協議会、兼 地域連携担当者研修会)の開催(5月、1月) 第1回、第2回ともオンラインと集合のハイブリットで実施した。 地域連携教育プロジェクト会議(月2回程度)の実施 地域連携教育アドバイザー、サブアドバイザー、指導主事、社会教育主事等による学校運営協議会への参加及び助言、支援 ※No.117に再掲	3,002	B		「防府まるごと学校のついで」はより多くの方が参加しやすいようにオンライン開催とした。熟議をすべての学校で行い、学校運営協議会委員の参画意識が高まってきている。また、児童生徒が参加した熟議もすべての学校で実施し、子どもから大人までの参画意識が高まってきている。 複雑な校区を抱える地域協育ネット協議会の活性化、ボランティアなど地域協働活動への参加者の増加。	B	校長会、教頭会、校内研修等の機会を利用して、教職員を対象とした研修を行い、学校運営協議会と地域協育ネットの運営の仕方についての理解を深める。 市内各小中学校の好事例を紹介し、地域連携教育の取組の参考となるようにする。 地域連携教育についての説明や、実際に行われている地域学校協働活動の紹介を積極的に行い、保護者や地域住民の地域連携教育への認知度と参加意識を高める。	学校教育課 生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
	105	「指導者バンク」と「支援者バンク」の一体的な運用の促進(No.94の再掲)	市内すべての地域協育ネットが、「コミュニティ・スクール推進協議会」、「もうふ幸い」を通して繋がるよう、一体的な運用を推進する。 プロジェクト会議等	「防府モデル(R4改訂版)」を「防府まるごと学校のついで」等の研修で取り上げ、せます人材バンクを通して繋がるよう、一体的な運用を推進する。 プロジェクト会議等	-	B		校長会で「指導者バンク」と「支援者バンク」について、その仕組みと活用の仕方について説明した。	-	B		校長と教頭へ「指導者バンク」と「支援者バンク」の説明を行うことで、理解が深まり、登録を地域路方へ促す学校があった。新たに活用した学校が2校あった。	B	市広報へ「指導者バンク」と「支援者バンク」についての情報を掲載し、市民の学校支援ボランティアへの認知度を上げ、新規登録者を増やす。研修会や学校運営協議会で「防府モデル」を積極的に使って、「指導者バンク」と「支援者バンク」についての学校運営協議会委員の認知度を高め、新規登録者と実際に活動する人を増やす。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
	106	放課後子ども教室の開催等、放課後や週末の子どもの居場所づくりの推進(No.118に再掲)	放課後や週末に、安全・安心な子どもたちの活動拠点となる居場所を設け、地域住民の参画を得て、子どもたちの学習やスポーツ・文化活動等の取組を実施することにより、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを行う。 児童館の運営(児童館行事等)	市内13小学校区で放課後子ども教室を実施 各教室年間10日～30日程度で学習活動と体験活動を中心に実施 市内放課後子ども教室への参加児童数(約5,000人)	3,568	B		市内15小学校区で放課後子ども教室を実施。 各教室、年間10日～30日程度で学習活動と体験活動を中心に実施 市内放課後子ども教室への参加児童数(約5,000人) ※No.27の再掲	4,814	B		今年度活動を再開した小学校区が2つあり、市内全小学校区で放課後子ども教室が実施された。活動回数も、昨年度から40回程度増加した。 放課後子ども教室の運営に関わるスタッフが固定化し、実施可能な活動の幅が狭くなっている。	B	引続き情報交換会等により教室間の情報共有や連携に努めるとともに、ボランティア養成講座等の機会を活用し、運営側のスキルアップを図る。放課後子ども教室の様子を保護者や地域の方に周知し、地域の方の運営スタッフへの関心を高め、新規スタッフの増加を図る。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
事業効果						3	事業効果			4					
効率性						3	効率性			3					
107		家庭教育学級や就学期子育て講座等の公民館による講座の充実	公民館講座において、「教養向上」以外に「家庭教育・家庭生活」「市民意識・社会連帯意識」「指導者養成」等の現代的課題に取り組む。講座で学んだ学習成果を学校支援やまちづくりに生かすことができるように支援する。	就学期子育て講座(15校)を9月から11月にかけて実施 公民館家庭教育学級(延べ1,604人) 高齢者教室(延べ2,252人) 女性学級(延べ2,344人) 教養講座(延べ24,620人)	-	B		就学期子育て講座(15校)を9月から11月にかけて実施。 公民館家庭教育学級(延べ1853人) 高齢者教室(延べ2172人) 女性学級(延べ2459人) 教養講座(延べ24282人)	-	B		各公民館で、概ね計画どおりに講座等を実施することができた。	B	多様なニーズに対応した講座や教室の充実を図る。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
108	地域連携担当者や公民館職員との合同研修の充実	学校の公務分掌上に、地域連携(生涯学習、コミュニティ・スクール)担当教員を位置づけ、研修会を実施して、学校と地域の連携を推進する。	「防府まるごと学校のついで」(兼 地域協育ネット協議会、兼 地域連携担当者研修会)の開催(6月、2月) 第1回は集合、第2回はオンラインと集合のハイブリットで実施 地域連携教育担当者研修会(8月、2月)	173	B		「防府まるごと学校のついで」(兼 地域協育ネット協議会、兼 地域連携担当者研修会)の開催(5月、1月) 第1回、第2回ともオンラインと集合のハイブリットで実施 地域連携教育担当者合同研修会(8月) 地域連携教育担当者研修会(2月)	3,002	B		研修会で、熟議についてその必要性と活用の仕方について理解を深めた。結果、市内すべての小中学校が熟議を実施し、子どもも含めて参画意識が高まった。 地域学校協働活動推進員や地域連携教育担当以外の教職員の地域連携教育に対する個人の意識の差が大きい。	B	引続き「防府まるごと学校のついで」と、地域連携教育担当者会議を効果的にを行い、地域連携教育担当者教職員と管理職、地域学校協働活動推進員の意識を高め、地域連携教育についての理解も深めていく。 また、ベースアップ研修を継続して行い、全教職員の意識を高め、地域連携教育への理解も深める。	学校教育課 生涯学習課	
					到達度	3			到達度	3					
					事業効果	3			事業効果	3					
					効率性	4			効率性	3					

基本目標	3 学びを通じてつながる地域づくり
施策	(2) 地域の協働を進めるための仕組みづくり
施策の展開	① 家庭教育力の向上
施策の方針	子どもの発達段階に対応したさまざまな情報を提供するとともに、親子のふれあいや父親の子育て参加を促進する。 地域の身近なサポーター役として、子育てに関する知識や経験をもつボランティアを中心に、子育て家庭を支援するとともに、育児に追われ孤立しがちな保護者が地域で気軽に相談できる体制の強化を図る。

【評価】  
評価項目の合計点数をもとに記入  
A～Dで評価  
【評価項目(到達度、事業効果、効率性)】  
それぞれ1～4(点)で評価

※記入要領参照

【今後の方向性】  
A. 拡充を図る  
B. 現行のまま推進する  
C. 事業の改善が必要  
D. 計画の見直しが必要

事務事業の進捗状況

内容の 実施の 連番	主な取組	事業説明	4年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (4年度)		5年度末実施状況	事業費 (千円)	評価 (5年度)		評価コメント 課題	今後の 方向性	今後の事業への反映	担当課			
					到達度	事業効果			到達度	事業効果							
ア 地域ぐる みの家 庭教育 支援の 推進	109	県が主催する家庭教育アドバイザー養成講座への参加を促し、その修了者を活用することにより、家庭教育並びに子育て支援の充実を図る。	家庭教育アドバイザー養成講座修了者が家庭教育支援チームの一員として子育て学習会等において活動 家庭教育関係者を対象とした研修会を実施(養成講座修了者からは7人の参加)	-	B	到達度	3	家庭教育アドバイザー養成講座今年度修了者が家庭教育支援チームを立ち上げた。 家庭教育アドバイザー養成講座を今年度修了した3名が家庭教育支援チームの一員として子育て学習会等において活動	-	B	到達度	3	子育て学習会、赤ちゃんとのふれあい体験、子育て広場等、活躍の場が増え、新規の方が活躍する場もあった。 養成講座受講生の新規開拓をしていく必要がある。	B	引続き放課後子ども教室関係者、PTA、子ども会関係者など、多くの方に情報発信をしていく。養成講座受講者を増やすとともに、修了者をPTAや学校に紹介し、PTA活動や学校の行事等で修了者や受講者が活躍できる場を設定する。	生涯学習課	
						事業効果	3				事業効果	4					
						効率性	2				効率性	3					
	110	家庭教育に関する相談体制の充実	家庭教育力向上のため、各公民館、文化センター、学校等において、子育てや家庭教育講座、親子や地域でのふれあい活動を開催し、交流の場の確保をする。公民館家庭教育学級等	公民館家庭教育学級16公民館等で125回実施(参加者(延べ)1604人)	5,824	B	到達度	3	公民館家庭教育学級16公民館等で127回実施(参加者(延べ)1853人)	5,994	B	到達度	3	各公民館で、概ね計画どおりに講座等を実施することができた。 社会情勢や家庭環境の変化に伴う多様なニーズに対応した講座や教室の充実が必要である。	B	多様なニーズに対応した講座や教室の充実を図る	生涯学習課
							事業効果	3				事業効果	3				
							効率性	3				効率性	3				
	111	就学期子育て講座や思春期子育て講座等、家庭教育学習の推進	学校と公民館を中心に地域で家庭教育支援を図るため、就学期を迎えた保護者に対し、子どもに対するこれからの接し方や学校生活などについて学ぶ機会を提供する。 また、中学校ではPTA研修会等の機会を利用して思春期子育てについて学習会を開催する。	就学期子育て講座(15校)を9月から11月にかけて、学校・公民館・生涯学習課間で連携して実施 思春期子育て講座(9校)を7～12月にかけて実施	90	B	到達度	3	就学期子育て講座(15校)を9月から11月にかけて、学校・公民館・生涯学習課間で連携して実施 思春期子育て講座(11校)を7～12月にかけて実施	110	B	到達度	3	就学期子育て講座については公民館社会教育指導員が企画し、講演会を行ったり、座談会を行ったりするなど、参加者や地域のニーズに即した開催となるよう工夫していた。また、家庭教育支援チームや県の事業と協働して行う工夫をしていた。 民生・児童委員や子育て主管課、自治会等との地域と保護者をつなぐための連携が必要。	B	民生・児童委員や自治会、母子推進員や母親クラブと連携するため、関係所管課と情報交換を行う。また、その関係所管課が行っている市全体の会議等で、連携を呼びかけあう場を設定する。	生涯学習課
							事業効果	3				事業効果	4				
							効率性	3				効率性	3				
112	「家庭の日」親子ふれあいイベントの開催等、「家庭の日」運動の積極的な推進	青少年を健全に育てるための最も重要な基盤である家庭を見直すために、毎月第3日曜日を「家庭の日」として、防府市青少年育成市民会議を中心として「家庭の日」運動の啓発活動の拡大を図る。 また、官公庁が行うイベントにおいても、「家庭の日」を念頭において、スケジュール調整を行う。	山口短期大学との協働により「家庭の日」親子ふれあいイベントを市文化福祉会館及びルルサス文化センターで開催した。(6月、7月、10月、11月、1月、2月) 防府市青少年育成市民会議の取組として、啓発用品(ポスター・チラシ・のぼり旗)を作製し、配付した。また、「家庭の日」運動に係る標語を募集し、入賞した方に記念品等を贈呈した。 市広報や広報紙「はばたき」、まなぼうやだよりに記事を掲載した。	2,181	B	到達度	3	山口短期大学及び周南公立大学との協働により「家庭の日」親子ふれあいイベントをルルサス文化センターで開催した。(6月、7月、9月、10月、11月、12月、1月、2月) 防府市青少年育成市民会議の取組として、啓発用品(ポスター・チラシ・のぼり旗)を作製し、配付した。 市広報や広報紙「はばたき」、まなぼうやだよりに記事を掲載した。	1,899	B	到達度	3	概ね計画どおりに事業が実施できた。「家庭の日」親子ふれあいイベントにより、参加者からの口コミで、家庭の日の認知度が高まっている。 学校や幼稚園などへの情報発信など、さらなる啓発活動に努める必要がある。	B	学校の教職員への周知に力を入れ、さらなる周知に繋がるよう、継続して啓発活動を実施する。 また、学校や幼稚園へ家庭の日の様子を情報提供し、子育て家庭への認知度を高める。	生涯学習課	
						事業効果	3				事業効果	3					
						効率性	3				効率性	4					

施策内容	連番	主な取組	事業説明	4年度末実施状況	事業費(千円)	評価(4年度)		5年度末実施状況	事業費(千円)	評価(5年度)		評価コメント 課題	今後の方向性	今後の事業への反映	担当課
						到達度	事業効果			到達度	事業効果				
子育て支援体制の整備・充実	113	地域の子育てサークルの支援 子育てを支援するボランティアの活用	母子保健推進員が地域の身近なサポーター役となり、乳幼児を持つ保護者等が安心して子育てできるように、訪問活動の実施や各地域での子育てサークル等の母が集える場を提供する。 母子保健推進員による訪問活動、各地区子育てサークル、わいわいHOFUっ子の集い等	母子保健推進員による訪問活動:3,397件) 子育てサークル:(14地区、44回、延410組)	1,097	B		母子保健推進員による訪問活動(3,397件) 子育てサークル(14地区、49回、延494組) わいわいHOFUっ子の集い(93組、子ども100人)	1,079	B		母子保健推進員による家庭訪問や子育てサークル活動は子育て中の親子の孤立を防ぎ、地域とのつながりをもつ重要な機会となっている。わいわいHOFUっ子の集いは、多くの参加者に楽しんでもらうことができた。 子育て中の保護者が、母子保健推進員を通じて、地域の相談先(こども家庭センター等)を知り、困った時には気軽に相談できるようになる取組が必要である。	B	訪問時に配布するチラシの内容を見直し、母子保健推進員が子育て中の保護者に声をかけやすいよう工夫する。	こども相談支援課(健康増進課)
						到達度	4			到達度	4				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
	114	企業等への「家庭の日」運動に関する啓発活動の広報・啓発	「家庭の日」運動に関する啓発活動を行い、子育てに関する環境づくりを促進するよう努める。	「家庭の日」運動の啓発活動 ・市広報への掲載(毎月1日号) ・チラシやポスター、のぼり旗の掲示・設置	-	B		「家庭の日」運動の啓発活動 ・市広報への掲載(毎月1日号) ・チラシやポスター、のぼり旗の掲示・設置	-	B		防府市青少年育成市民会議が発行するチラシやポスター、のぼり旗を市の社会教育施設に設置・掲示することで、関係企業や住民への広報に繋げることができた。 関係機関と連携し、啓発活動に努める必要がある。	B	さらなる周知に繋がるように、継続して啓発活動を実施する。	生涯学習課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
	115	幼稚園・保育所(園)や地域子育て支援拠点等での子育て相談の実施	地域の子育て支援機能の充実を図るため、子育てに関する相談を実施する。	保育所・幼保連携型認定こども園 22施設 地域子育て支援拠点施設 8施設	-	B		保育所・幼保連携型認定こども園 22施設 地域子育て支援拠点施設 8施設	-	B		保護者の育児不安の解消の一助になっている。	B	地域子育て支援拠点施設が子育てに関する相談の場となるよう引き続き実施する。	子育て支援課
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				
116	5歳児(年中児)発達相談会の開催等、子どもの発育や発達の相談・支援の充実(No.118に再掲)	0歳から18歳未満の子どもの養育に関する悩み等児童福祉に関する相談に応じる。 年中児を対象に幼稚園、保育園を通じて問診票を配布し、希望者に発達相談会を実施し、育児支援、生活支援、就学支援を行う。(学校教育課と共催)	0歳から18歳未満の養育に関する悩み等児童福祉に関する相談に応じている。 相談件数※441人	-	B		0歳から18歳未満の養育に関する悩み等児童福祉に関する相談に応じている。 相談件数※458人	-	B		保護者の育児不安の解消の一助になっている。また、関係機関と連携し、支援することができている。	B	児童福祉に関する相談に応じ、育児不安の解消や解決方法を模索するとともに、関係課、他市町との情報連携を引き続き実施する。	こども相談支援課(子育て支援課)	
					到達度	3			到達度	3					
					事業効果	3			事業効果	3					
					効率性	3			効率性	3					
				5歳児(年中児)発達相談会:11回(参加者77人)	305	B		5歳児(年中児)発達相談会:12回(参加者74人)	296	B		子育てやお子さんの発達に関する相談の場となっている。 臨床心理士等相談員の確保が難しい現状がある。	B	関係機関と連携し、継続して開催する方法を検討していく。	こども相談支援課(健康増進課)
						到達度	3			到達度	3				
						事業効果	3			事業効果	3				
						効率性	3			効率性	3				

基本目標	3 学びを通じてつながる地域づくり
施策	(2) 地域の協働を進めるための仕組みづくり
施策の展開	② 学校・家庭・地域の協働の推進
施策の方針	コミュニティ・スクール、学校支援地域本部事業、放課後子ども教室事業など、保護者や地域住民が学校支援活動を通じて築く豊かな人間関係による、地域の教育力の向上を目指す。 また、保護者と地域住民とのつながりを深めるため、公民館などで地域住民と協働して家庭教育に関する講座を開催するなど、学習機会の提供に努める。

【評価】
評価項目の合計点数をもとに記入
A～Dで評価
【評価項目(到達度、事業効果、効率性)】
それぞれ1～4(点)で評価
※記入要領参照

【今後の方向性】
A. 拡充を図る
B. 現行のまま推進する
C. 事業の改善が必要
D. 計画の見直しが必要

事務事業の進捗状況

施策内容	連番	主な取組	事業説明	4年度末実施状況	事業費(千円)	評価(4年度)			5年度末実施状況	事業費(千円)	評価(5年度)			評価コメント	今後の方向性	今後の事業への反映	担当課	
						到達度	事業効果	効率性			到達度	事業効果	効率性					
ア 学校・家庭・地域が協働した教育支援活動の推進	117	コミュニティ・スクールの推進並びに地域ぐるみで学校(部活動等)を支える取組の推進(No.104の再掲)	学校を支援する活動として、コミュニティ・スクール等を推進する。 「防府まるごと学校のつどい」(兼 全地域協育ネット協議会、兼 地域連携担当者研修会)の開催(6月、2月) 「防府まるごと学校のつどい」(兼 全地域協育ネット協議会、兼 地域連携担当者研修会)の開催等	「防府まるごと学校のつどい」(兼 地域協育ネット協議会、兼 地域連携担当者研修会)の開催(6月、2月) 地域連携教育プロジェクト会議(月2回程度)の実施 地域連携教育アドバイザー、サブアドバイザー、指導主事、社会教育主事等による学校運営協議会への参加及び助言、支援	463	B			「防府まるごと学校のつどい」(兼 地域協育ネット協議会、兼 地域連携担当者研修会)の開催(5月、1月) 第1回、第2回ともオンラインと集合のハイブリットで実施した。 地域連携教育プロジェクト会議(月2回程度)の実施 地域連携教育アドバイザー、サブアドバイザー、指導主事、社会教育主事等による学校運営協議会への参加及び助言、支援 ※No.104の再掲	3,002	B			「防府まるごと学校のつどい」はより多くの方が参加しやすいようにオンライン開催とした。熟議をすべての学校で行い、学校運営協議会委員の参画意識が高まってきている。また、児童生徒が参加した熟議もすべての学校で実施し、子どもから大人までの参画意識が高まってきている。 複雑な校区を抱える地域協育ネット協議会の活性化、ボランティアなど地域学協働活動への参加者の増加。	B	校長会、教頭会、校内研修等の機会を利用して、教職員を対象とした研修を行い、学校運営協議会と地域協育ネットの運営の仕方についての理解を深める。市内各小中学校の好事例を紹介し、地域連携教育の取組の参考となるようにする。地域連携教育についての説明や、実際に行われている地域学校協働活動の紹介を積極的にを行い、保護者や地域住民の地域連携教育への認知度と参加意識を高める。	学校教育課 生涯学習課	
						到達度	3	3			到達度	3	3					
						事業効果	3	3			事業効果	3	3					
						効率性	3	3			効率性	3	3					
	118	放課後子ども教室の開催等、放課後や週末の子どもの居場所づくりの推進(No.106の再掲)	放課後や週末に、安全・安心な子どもたちの活動拠点となる居場所を設け、地域住民の参画を得て、子どもたちの学習やスポーツ・文化活動等の取組を実施することにより、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを行う。 児童館の運営(児童館行事等)	市内13小学校区で放課後子ども教室を実施 各教室年間10日～30日程度で学習活動と体験活動を中心に実施 市内放課後子ども教室への参加児童数(約5,000人)	3,568	B			市内15小学校区で放課後子ども教室を実施。 各教室、年間10日～30日程度で学習活動と体験活動を中心に実施 市内放課後子ども教室への参加児童数(約5,000人) ※No.27、106の再掲	4,814	B			今年度活動を再開した小学校区が2つあり、市内全小学校区で放課後子ども教室が実施された。活動回数も、昨年度から40回程度増加した。 放課後子ども教室の運営に関わるスタッフが固定化し、実施可能な活動の幅が狭くなっている。	B	引続き情報交換会等により教室間の情報共有や連携に努めるとともに、ボランティア養成講座等の機会を活用し、運営側のスキルアップを図る。放課後子ども教室の様子を保護者や地域の方に周知し、地域の方の運営スタッフへの関心を高め、新規スタッフの増加を図る。	生涯学習課	
						到達度	3	3			到達度	3	3					
						事業効果	3	3			事業効果	4	3					
						効率性	3	3			効率性	3	3					
		119	社会教育指導員との情報交換等、学校と地域をつなぐコーディネーターの活用	学校と地域との連携を推進するために、調整役としてのコーディネーターの役割は大きく、コーディネーターの活用を図る。	地域学校協働活動推進員の職務についての研修を公民館社会教育指導員を対象に行った(9月) 地域連携教育担当者研修会(8月、2月)	-	B			「防府まるごと学校のつどい」(兼 地域協育ネット協議会、兼 地域連携担当者研修会)の開催(5月、1月) 第1回、第2回ともオンラインと集合のハイブリットで実施 地域連携教育担当者合同研修会(8月) 地域連携教育担当者研修会(2月)	-	B			公民館出張所会議、社会教育指導員会議で、地域学校協働活動推進員について研修会を実施し、地域学校協働活動推進員としての役割の理解が深まり、コーディネートへの意識が高まった。 地域学校協働活動推進員やの活動への公民館職員の理解や意識を高める必要がある。	B	公民館出張所会議を活用して、地域学校協働活動推進員の役割への理解を深め、公民館全体で地域と学校をつなぐ体制を進めていく。	生涯学習課
							到達度	3	3			到達度	3	3				
							事業効果	3	3			事業効果	3	3				
							効率性	3	3			効率性	3	3				
120	家庭教育学級等、保護者や地域住民との協働による講座の開催	公民館学級(家庭教育学級・女性学級等)において、保護者と地域住民とのつながりを深めるよう努める。	公民館活動 ・家庭教育学級 ・女性学級 ・公民館まつり	5,824	B			公民館活動 ・家庭教育学級 ・女性学級 ・公民館まつり	5,994	B			概ね計画どおり公民館活動を行うことができた。 地域によっては、家庭教育学級等の開催が困難な場合がある。	B	地域のニーズに応じた講座等を引き続き開催していく。	生涯学習課		
					到達度	3	3			到達度	3	3						
					事業効果	3	3			事業効果	3	3						
					効率性	3	3			効率性	3	3						

### 第3次防府市生涯学習推進計画「目標指標」

基本目標1 いつでもどこでも学べる環境づくり						
指標項目	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	令和7年度実績	目標(令和7年度)	担当課
「聞いて得するふるさと講座(出前講座)」の利用件数(年間)	109件	153件			130件	生涯学習課
公民館利用者数(年間:延べ数)	191,845人	164,069人			220,000人	生涯学習課
防府図書館館外個人貸出者数(年間)	138,034人	135,478人			147,000人	教育総務課
青少年科学館(ソラール)入館者数(年間)	32,530人	48,201人			80,000人	生涯学習課
文化財郷土資料館入館者数(年間)	1,720人	1,613人			3,700人	文化振興課

基本目標2 ひとりひとりがきらめく人づくり						
指標項目	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	令和7年度実績	目標(令和7年度)	担当課
『ほうふ幸せます人材バンク「指導者バンク」』登録者の派遣回数(年間)	194件	225件			200件	生涯学習課
「学ぼうやギャラリー」の設置箇所数	15か所	15か所			15か所	生涯学習課
市民活動支援センターの登録団体数(年間)	205件	203件			215件	地域振興課

基本目標3 学びを通じてつながる地域づくり						
指標項目	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	令和7年度実績	目標(令和7年度)	担当課
放課後子ども教室開設箇所数	13か所	15か所			15か所	生涯学習課
放課後子ども教室に係るボランティア数(延べ数)	1,946人	2,255人			3,100人	生涯学習課